

14.2r
102



始



石川縣水産試験場業務報告

大正六年度

母船式發動機漁業試験	一	鹹水養殖試験	四〇
あら延繩漁業	九	岩海苔蕃殖試験	四一
鯛延繩漁業	一五	鮎人工孵化蕃殖試験	四五
しいら旋網漁業試験	一八	ひがい移殖試験	五三
冷蔵試験	二三	定地海水観測	五六
調味品製造試験	三〇	海洋横断観測	五六
支那輸向鹽鱈製造試験	三五	附録	

大正六年度石川縣水產試驗場業務報告

漁撈部

第一 母船式發動機漁業試驗

主任技手 田中耕之助

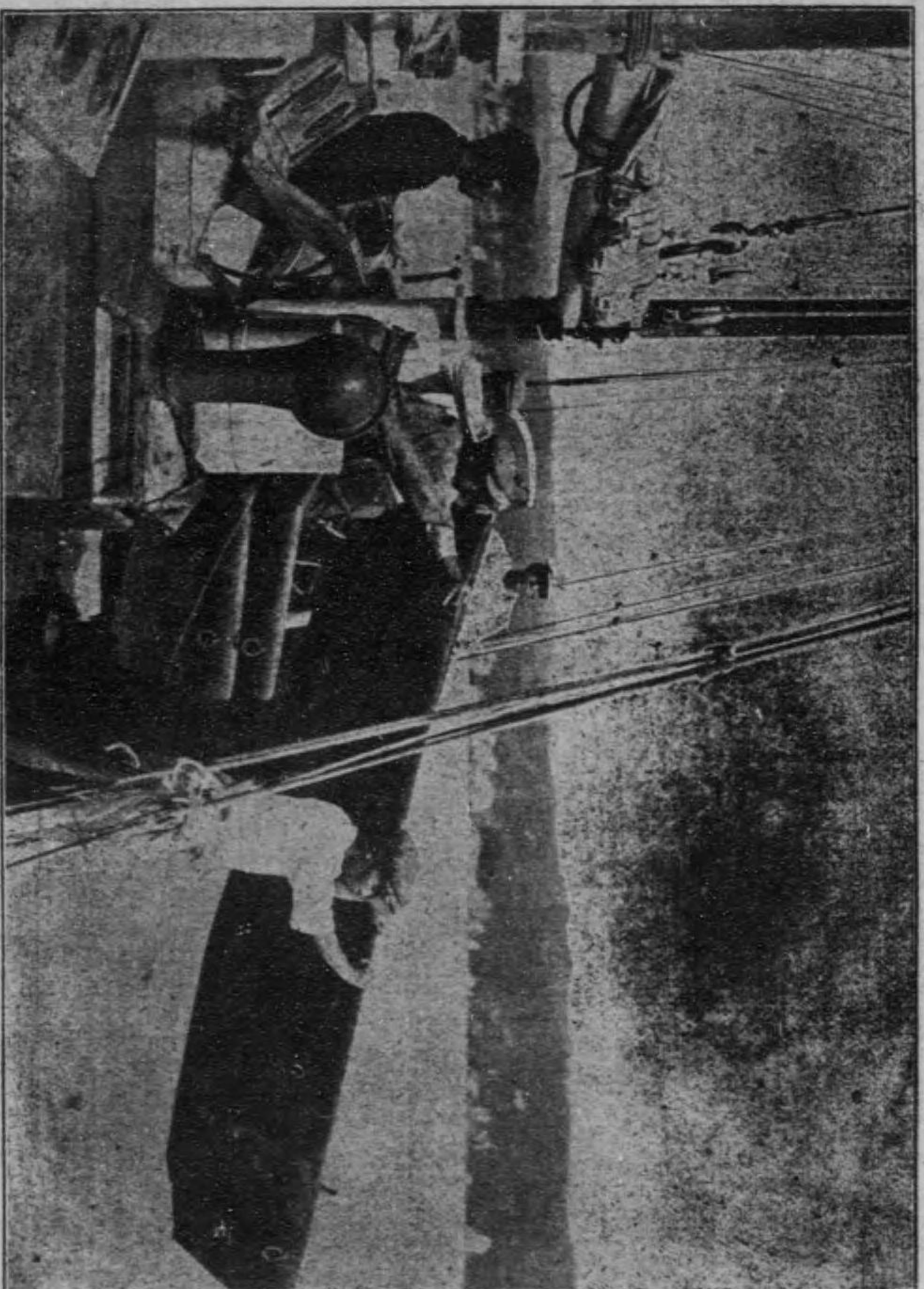
一、試驗ノ趣旨

本縣沖合殊ニ船倉島七ツ島嫁礁等ノ島嶼ヲ中心トセル一帯ノ海區ハ各種魚族ノ群游饒多ニシテ幾多ノ有利事業アル
 ラス米々充分利用セザルニ殆ント自然ノ儘ニ放任セラレツ、アリ之レ畢竟其ノ漁場ガ比較的陸地ト遠隔セルヲ以テ在來ノ
 漁船ヲ以テシテハ其ノ往復ニ尠カラサル時間ヲ要スルヲ以テ常ニ風潮ノ急變ヲ危懼シテ充分ナル操業能力ヲ發揮シ得ラレ
 又餌料其他ノ必要物資ノ供給ニ多大ノ障害ヲ來ス等ニ原因シテ自然此ノ好漁場モ棄テ顧ミラレサル謂以ナリ
 サレハ之等沖合漁場ヲ開發シテ漁利ノ増進ヲ謀ルト同時ニ沿岸ニ鯨鯨タル漁民ヲ誘導セントシ鯨及鯛延繩漁業ヲ目的トシ
 母船式發動機漁業試驗ヲ實施シタリ

二、試驗ノ方法

母船トシテ試驗船金城丸十九噸九純四十馬力發動機關付ヲ使用シ之レニ漁艇(長サ十四尺巾四尺深一尺八寸)三隻ヲ相互
 重ネ合セテ積載シ漁場ニ運搬シテ隨時引卸シ漁撈ニ從事スルモノトス

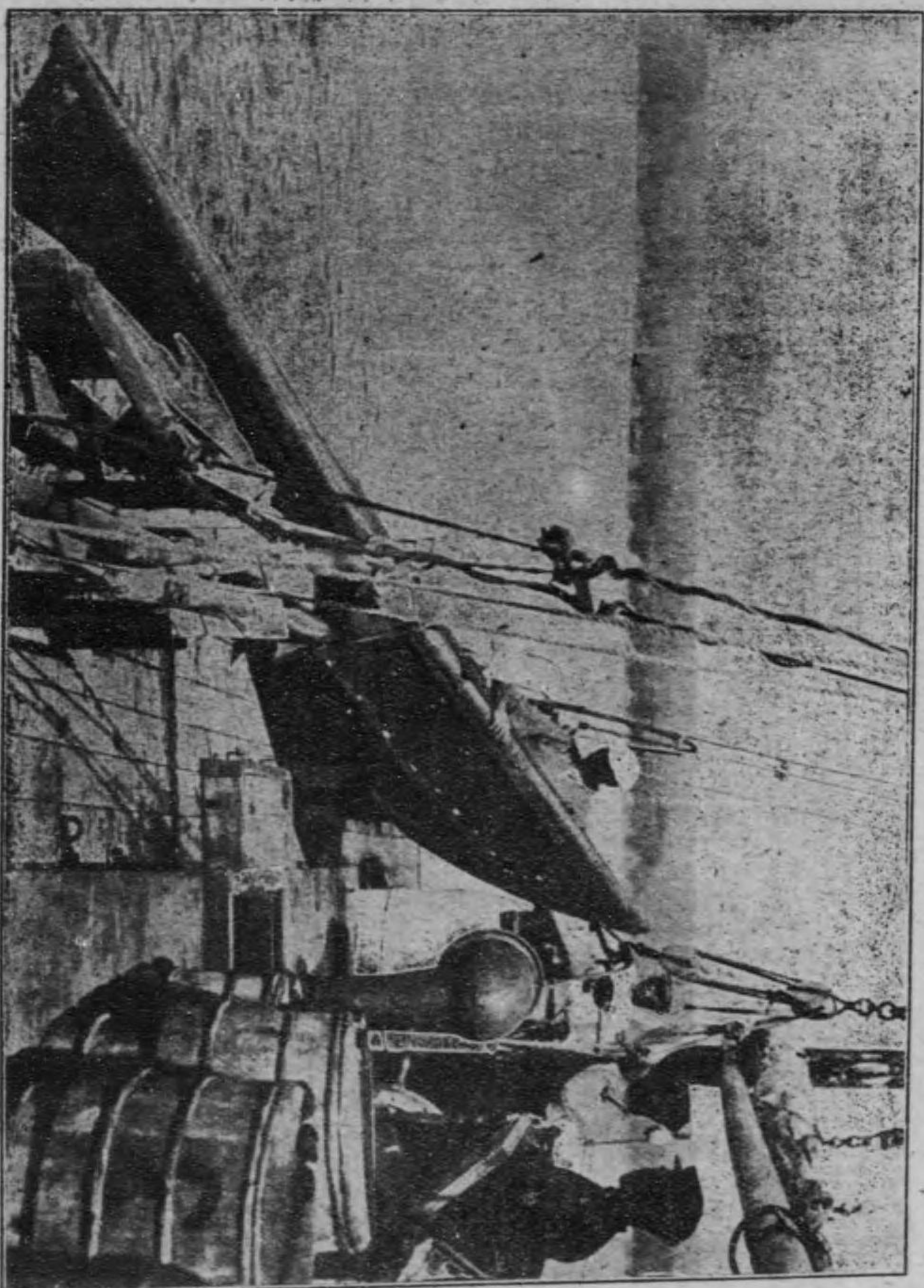
正
 大
 14
 内交



(11)

十九噸級ノ母船ナレハ裕
ニ六隻ノ漁艇ヲ操縦スル
ニ充分ナリト雖モ以上ノ
如ク三隻ヲ使用シタルハ
本場經費豫算ノ關係上已
ムヲ得サルニヨルモノナ
レハ以下試験ノ効果ハ漁
夫ノ給料餌料ヲ除ケハ殆
ンド同一經常費ヲ以テ約
二倍ノ結果ヲ得ラルルモ
ノト思考ス

母船ニハ漁艇ノ積卸ニ關
シテ特殊ノ設備ヲ施サス
唯舷ノ一部ニ舷門ヲ設ケ
此ノ部ヨリ引上クルト前
橋及「リギン」ニ各一組ノ
「テークル」ヲ設ケ荒天時
ニ於ケル漁艇積取りニ便

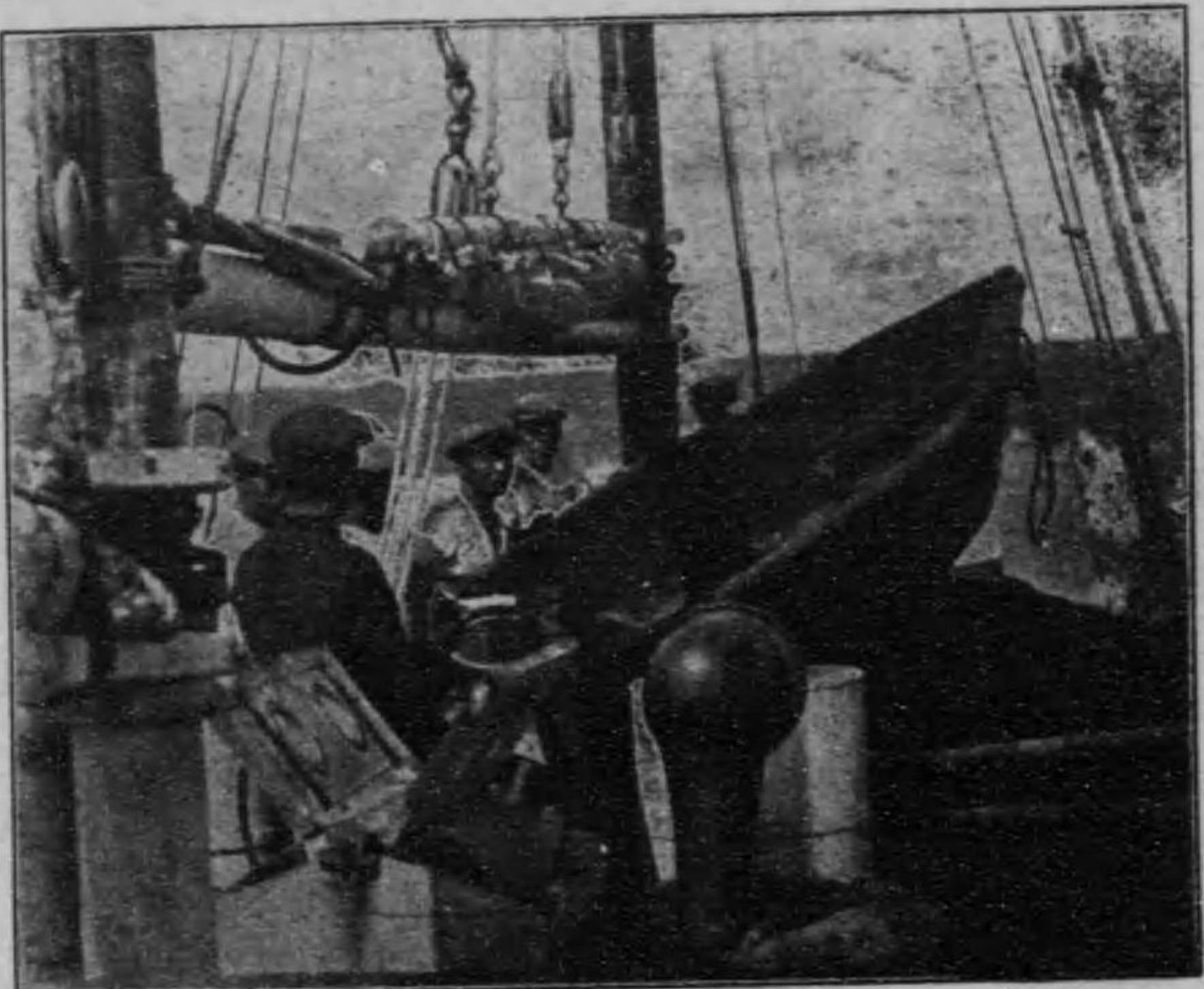


セルノミナリ

漁艇ハ乾燥時ニ於テ其ノ
重量三十七貫匁ナレバ漁
業中ト雖モ平時ハ四人ノ
腕力ヲ以テ容易ニ積卸ヲ
ナスコトヲ得

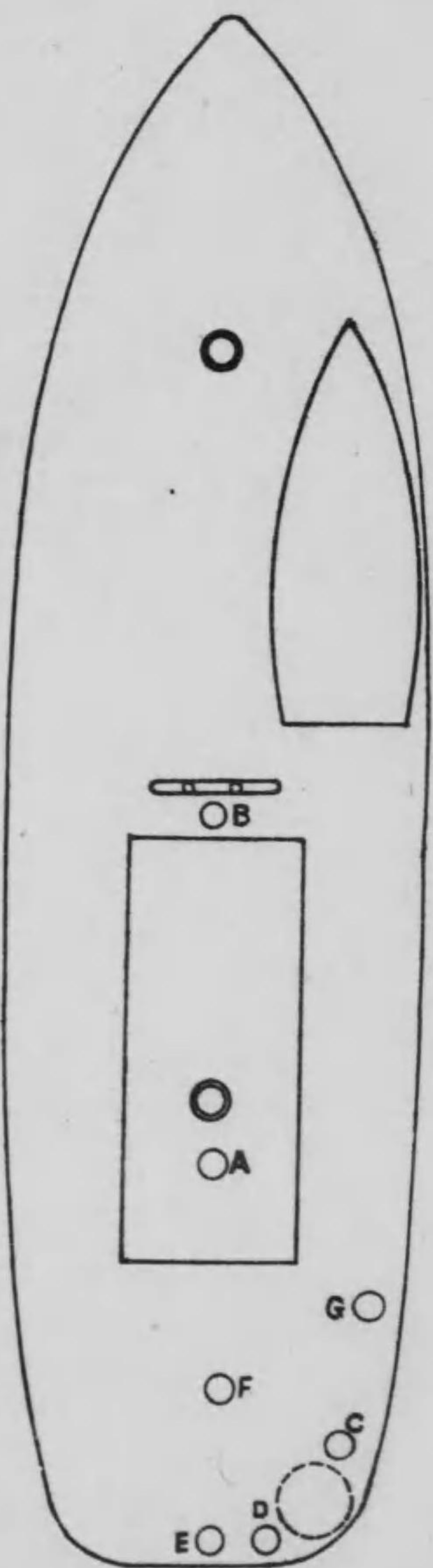
漁艇ヲ卸ス場合ニハ最上
層ノ漁艇ヲ其ノ下ニ重ね
タル漁艇ノ小縁上ニ持チ
上ケ其ノ艇尾ヲ舷外ニ向
ケ艇ノ半身ヲ突出セシメ
稍船尾ノ方向ニ向ハシム
而シテ母船ガ適度ノ行足
ヲ以テ徐徐ノ前進ヲナシ
ツ、アル時漁艇ヲ放下ス
平時ハ以上ノ如ク風浪ニ
顧慮ナクスルト雖モ波浪
高キトキハ母船ハ波浪ヲ

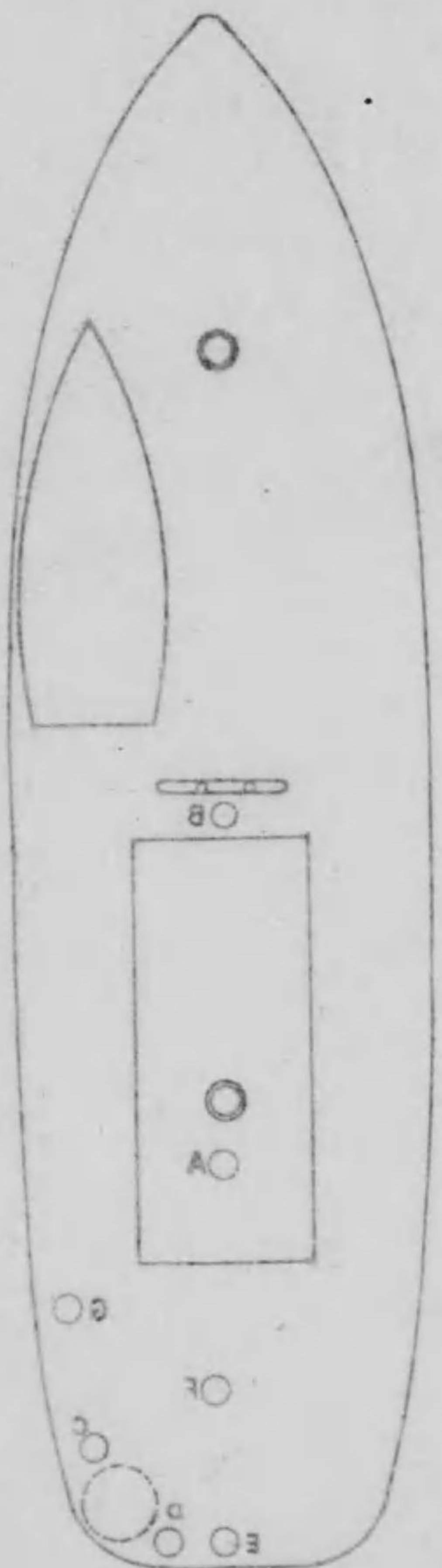
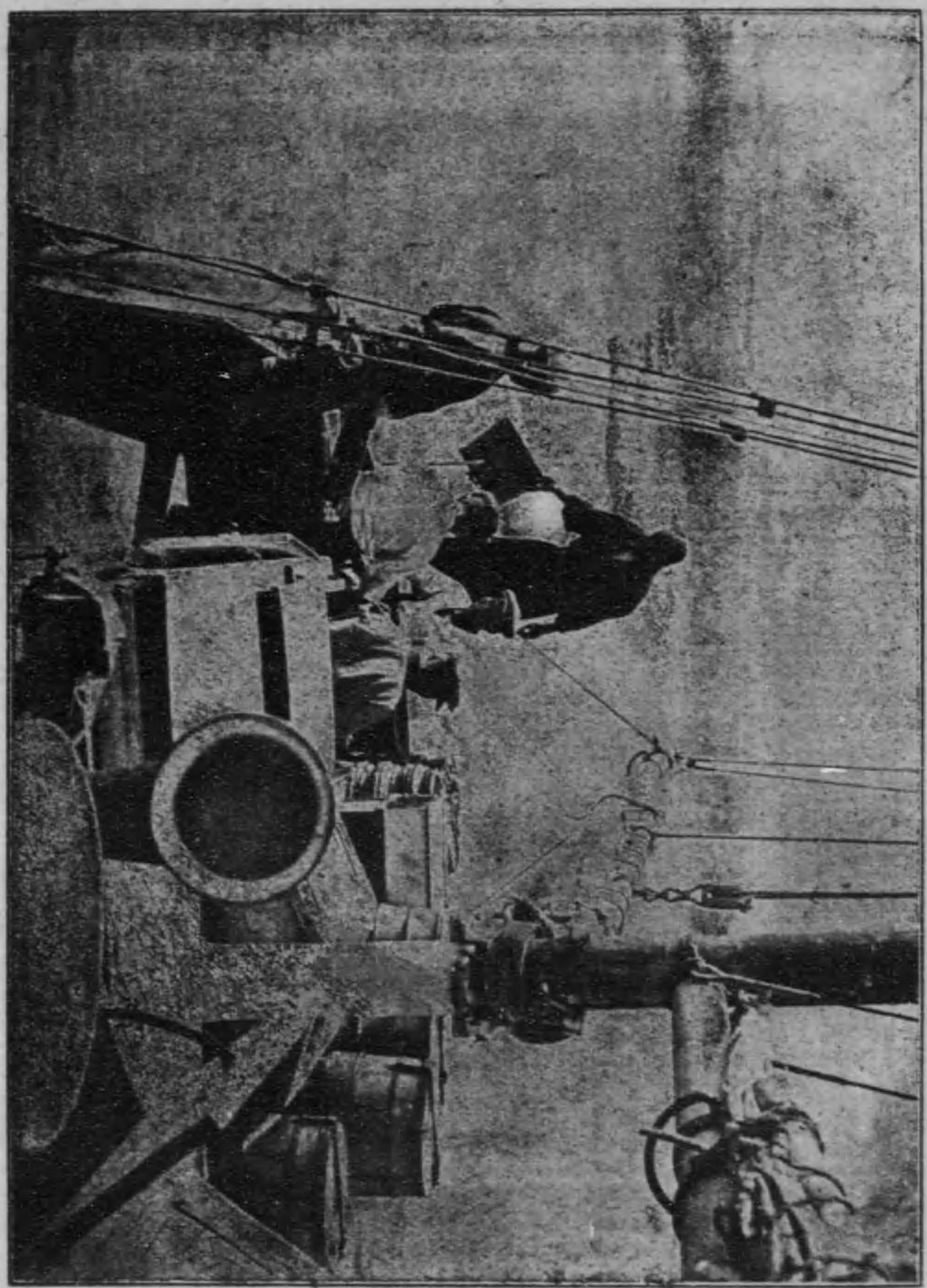
(12)



(四)
 反對舵後方ヨリ受ケツ、風下ニ流レ船体ノ動搖ヲ巧ミニ利用シ波浪ノ風間ヲ見計ラヒテ放下スルトキハ艇内ニ海水ヲ掬ヒ込ムノ患殆ントナシ
 漁艇ヲ積取ル場合ニハ海上平穩ナル時ニ於テハ前述セシ如ク乗組員ノ腕力ヲ以テスルト雖モ波浪高ク船体ノ翻弄セラル、場合ニ於テハ往々艇中ニ海水ヲ掬ヒ引揚困難ニ陥ルコト尠カラザルヲ以テ豫メ前記二組ノ「テークル」ヲ用意シ放下ノ場合ノ如ク反對舵後方ヨリ波浪ヲ受ケツ、波間ヲ見計ヒ迅速ニ引揚ケ重ネ合スモノトス

投繩ハ母船ヨリシ漁艇ハ主トシテ揚繩ニノミ使用セリ四隻以上ノ漁艇ヲ操縦スル場合ニ於テハ漁艇各自ガ單獨ニ投繩スル方母船ヨリ投繩スルヨリモ其ノ速度迅速ナリト雖モ漁艇四隻以下ノ場合ナレバ母船自ラ投繩スル方時間ニ於テ迅速ナルノミナラズ勞力ヲ節約シ得ルコト大ナリ又作業上ヨリスルモ幹繩ヲ充分ニ張下シ得ルヲ以テ自然漁場ノ範圍ヲ廣クシ漁獲ヲ増加シ得ルノ利アリ殊ニ風潮急ナル時ニ於テハ以上ノ効果顯著ナリトス母船漁場ニ近ケバ其ノ日ノ天候ニヨリ豫メ投繩ノ數量ヲ定メ之レニ應ジテ餌料ヲ處理シ浮標繩ヲ操柄ヘテ使用ニ支障ナカラシム而シテ投繩位置ニ達スレハ先ツ海深底質ヲ驗シ潮向潮速ヲ觀測シ適當ト認ムレハ乗組員ハ各擔當ノ配置ニ付クコト左圖ノ如シ





- A ハ總テノ作業ヲ指揮監督シ機ニ應シテ速力ヲ加減シ或ハ針路ヲ左右ス
- B ハ常ニAニ注意シテ針路ヲ守リ舵ヲ操リ投繩ノ配列位置ヲ確知ス
- C、D ハ共ニ裝卸投繩ヲ司ル
- E ハ浮標桶ヲ投スルト同時ニ常ニ投繩ノ模様ヲ監視シテ裝卸投繩ニ關シテC、Dニ注意ヲ與フ
- F ハC、Dノ動作ニ支障ナキ様漁具ヲ整理シテ補給ス
- G ハ延ヘ終リタル空籠ヲ

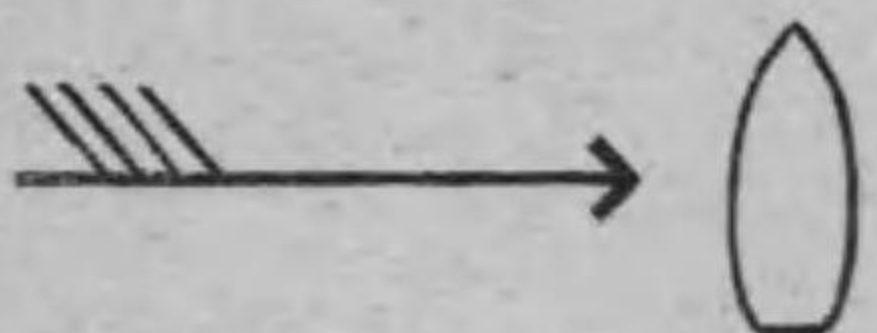
整頓スルト同時ニC、Dニ餌料ヲ補給ス

投縄速度ハ漁具ノ構造如何ニヨリテ差アリ然延繩ニ於テハ一分間ニ二百尋鋼延繩ニ於テハ一分間ニ三百尋ノ幹繩ヲ張下スルコトヲ得得投縄ハ成ル可ク潮流ヲ横リテ張下スルヲ可トスルト雖モ潮速ノ急劇ナルカ風浪ノ強烈ナル時ハ風向又ハ潮向ト同一方向ニ投スルヲ可トス而シテ投縄ハ天候ノ許ス範圍ニ於テハ一直線ニ延長スル方漁利多シト雖モ場合ニ依リテハ二ツ折三ツ折ニ屈折シテ張下ス

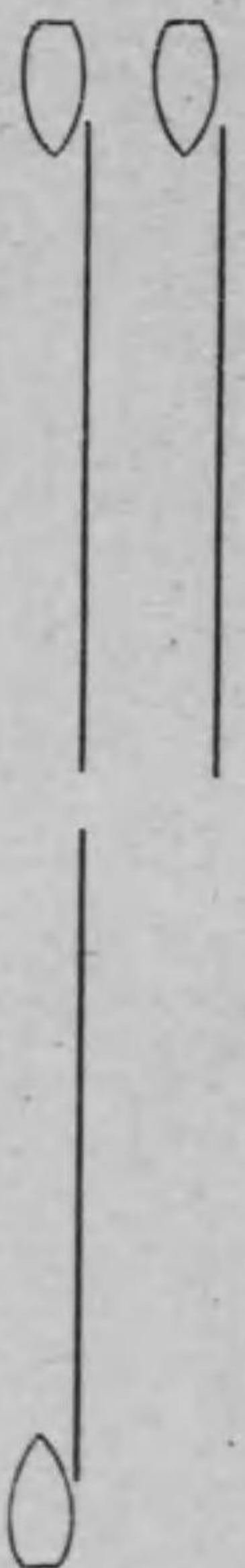
一直線ニ延スル場合ニ於テハ各漁艇ヲ等間隔ニ配置シ母船ハ中央風上ニ潮ツテ漂流監視ス此ノ場合ニ於テハ各漁艇ハ常ニ遠ク相隔リ接近スルコトナキヲ以テ極メテ平穩ナルトキニアラサレバ監視甚ダ困難ナリ



(六)

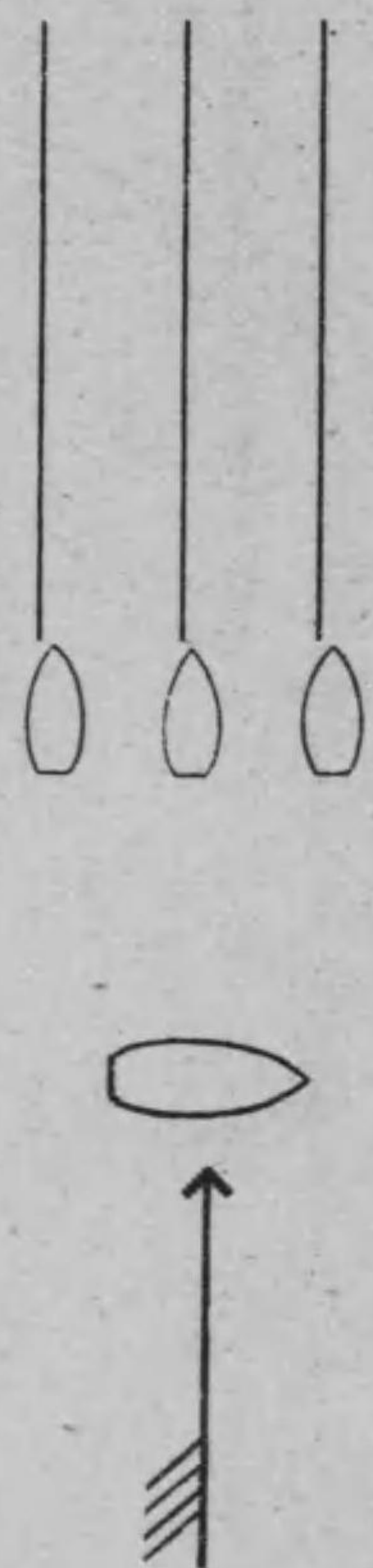


二ツ折ノ法ハ最モ普通ノ繩形ニシテ漁艇二隻分ノ繩ヲ一直線ニ投シ一隻分ノ繩ヲ之レト並行ニ折返シテ其ノ中央ニ終ラシムルナリ而シテ其ノ折目ニ漁艇二隻ヲ延ヘ始メニ一隻ヲ配シテ揚繩セシメ最後ニ漁艇ヲ一所ニ集ムルモノナリ、サレバ母船ハ其ノ中央風上ニ漂流スレバ漁艇ノ監視容易ナリ



天候險惡ノ兆ヲ示シ風力次第ニ加ハルノ恐アル場合ハ三ツ折ニ延スルヲ最モ安全ナル法トス即チ各漁艇ノ持繩ヲ三列ニ並行セシメテ同一方向ニ延ヘ風上各列ノ端ニ漁艇ヲ配シ母船ハ適當ノ巨離ヲ隔テ、風上ヨリ漂流スレバ漁艇ハ常ニ指呼ノ内ニアリテ萬一ノ急ニ應スルヲ得テ監視ニ甚ダ便ナリ

(七)



漁艇ハ其ノ積載力極メテ微弱ナレハ揚繩ニ際シテハ母船ハ時々各漁艇ノ漁獲物及漁具ヲ積取り漁夫ノ食事飲水ノ供給ヲナシ漁艇ノ操業能力ヲ遺憾ナク發揮セシムルヲ要ス
 スクシテ未明ヨリ日没ニ至ル間間斷ナク揚繩ニ努メ夜間ハ漁場ニ漂流シテ漁夫ヲシテ休養セシム而シテ天候ノ許ス限リ漁具餌料ノ盡クル間魚船ヲ滿載シ得ル迄ハ連日繰返シ漁業ヲ繼續スルモノトス

三、乗組員

乗組員ハ總員技手以下十二名ナリ即チ水夫長一名、機關士一名、水夫三名、漁夫六名ニシテ漁夫ハ漁具漁艇ノ整頓修理ヲ擔當シ漁夫長ノ監督ニ從ヒ水夫ハ船具船體ニ關シテ分擔ヲ定メ水夫長ノ配下ニ屬ス機關士ハ專ラ機關ノ運轉ヲ司ル技手ハ總員ヲ指揮シテ意途ノ如ク操業ス

四、根據地

能登沿岸ノ諸港ハ該漁業根據地トシテノ要件ヲ具備セルモノ殆ントナク各一利害ヲ免レス當場ニ於テハ便宜上本場所在

地宇出津港ヲ根據地トシ漁具ノ修理餌料ノ補給ヲナシ漁獲物ハ主トシテ七尾市場ニ陸揚セシタリ

根據地ト漁場間ノ巨離ハ五十哩乃至七十哩ナリ

五、あら延繩漁業

(イ) 期間

本縣ニ於ケル鰯ノ産卵時期ハ七八月ノ頃ナルヲ以テ此ノ時期ニ於テハ特殊ノ魚礁ニ集合シテ餌料ヲ食ラザルニ至リ延繩漁業ニ不適當ナルヲ以テ可成的漁期ヲ早ムルヲ利益トス即チ春期ニ於ケル該漁業ノ有利期間ヲ三月ヨリ六月ノ間ニアリトスルヲ以テ本試驗ハ三月十五日ニ着手シ六月十六日ヲ以テ終了シタリキ

(ロ) 漁場

鰯漁場ハ本縣沖合六十尋乃至百尋ノ間ニシテ岩礁アル處ハ殆ンド之レガ漁場ナラザルハナシト雖モ其ノ範圍廣濶ニシテ母船式漁業ノ操業ニ適當トスル處ハ船倉島ノ西方沖合ヨリ羽咋郡海士崎沖合ニ亘ル一帯ノ海區トス此ノ漁場海底ハ五十尋ヨリ八十尋ニ至ル間ハ砂貝殻質ナレト八十尋以上百尋ニ至レハ細砂泥質ノ多キヲ見其ノ間一帯ニ珊瑚質ノ鰻豚連亘ス

此ノ漁場ニ棲息スル鰯ハ時機ニヨリ多少移動スルト雖モ常ニ淺所ニアルモ



ノハ平均四五十枚余リノモノ多ク深度ヲ加フルニ從ヒテ次第ニ其ノ大サヲ増シ七八十尋ニ至レハ平均五六百枚週リトナル而シテ百尋附近ニ至レハ三四貫大ノモノヲ釣獲スルコト稀ナラス

(ハ) 漁具

延繩一鉢ノ構造ヲ示セハ左ノ如シ

幹繩南京麻右二子燃百尋ノ目方二百十寸大ノモノ一鉢百尋ヲ使用ス

枝糸金引麻右二子燃百尋ノ目方二十七寸大ノモノ一本ノ長サ四尺

幹繩二尋間ニ一本ヲ付シ一鉢五十本付トス

釣鈎角形ニシテ鐵線十七番ヲ以テ製シ一本ノ目方約二分ナリ

浮標繩金引麻右二子燃百尋ノ目方三百五十寸大ノモノ百二十尋ヲ一本トス

幹繩六鉢ニ付一本ヲ使用ス

浮標桶杉材製厚五分外徑一尺二寸高一尺ニシテ二重底トナシ内底ノ深サ六寸五分トス

各浮標桶ニハ番號ヲ付シテ操業ニ便ス

繩鉢竹製平籠ニシテ外徑一尺九寸

染料大谷式染トス

沈石、幹繩ニハ一個五十寸大ノ石ヲ平均二鉢ニ一個ヲ付ス

浮標繩ノ下部ニハ一個三百寸大ノ石一個ヲ付ス

價格 延繩一鉢 金貳圓

浮標繩一鉢 金參圓

浮標桶一個 金壹圓

(ニ) 漁具使用量

漁艇一隻ノ漁具使用可能數量ハ平時ニ於テ一時間約六鉢(投繩ヲ母船ニテナシ揚繩ヲ漁艇ニテナス)ヲ限度トスルヲ以テ一日ノ使用量ハ八十枚ヲ極限トス

又漁具ノ整理ニ要スル時間ハ一鉢約二十分トス

(ホ) 餌料

鮭漁期ニ於テハ鮭盛ニ漁獲セラル、ヲ以テ之レヲ鹽藏シテ餌料トスルヲ最モ適當トス尙其他ニ柔魚鰭等ノ好餌料アリト雖モ一時ニ多量ヲ要スルノミナラズ保存ニ堪ユル點ヲ考フル時ハ普通ノ場合ニ於テハ價格低廉ニシテ比較的保存シ得ヘキ眞鮭ヲ使用スルヲ得策トス

大羽鮭	體長七寸	五ツ切ニテ使用	一尾 四厘
中羽鮭	體長四寸	二ツ切ニテ使用	一尾 一厘五毛
小羽鮭	體長三寸	丸ニテ使用	一尾 五毛

(ヘ) 試験ノ經過及成績

母船ニハ每航海漁具四百鉢ヲ用意シ之レニ必要ナル附屬漁具ヲ積載シ約一週間ノ航海ニ堪ヘ得ル凡テノ消耗品ヲ準備シ三月十五日ヨリ六月十五日ニ至ル九十四日間ニ於テ試験ヲ實施シタリ

此ノ期ニ於テハ未ダ日本海ニ於ケル荒天恢復期ニ至ラス小低氣壓續生シ操業甚タ困難ヲ感シタリ今其ノ盛漁期間ニ於テ金澤測候所ヨリ發セラレタル暴風警報ノ回數ヲ示セバ次ノ如シ

四月地方暴風警報

警報發布日時	警戒區域	警文	警報解除日時	警戒區域
三日午後零時十分	北部南部全沿岸	風強カルヘシ	五日正午	北部南部全沿岸
九日午後四時四十分	北部南部全沿岸	風強カルヘシ	十一日午前十一時五十分	北部南部全沿岸
十二日午前十一時三十分	縣下全部	風強カルヘシ	十四日正午	縣下全部
十五日正午	縣下全部	風強カルヘシ	十七日午後一時	縣下全部
二十日午後零時三十分	北部南部全沿岸	風強カルヘシ	二十一日正午	北部南部全沿岸
二十七日午後四時	北部南部全沿岸	風強カルヘシ		
二十八日午前十一時四十分	縣下全部	風雨強カルヘシ	三十日正午	縣下全部

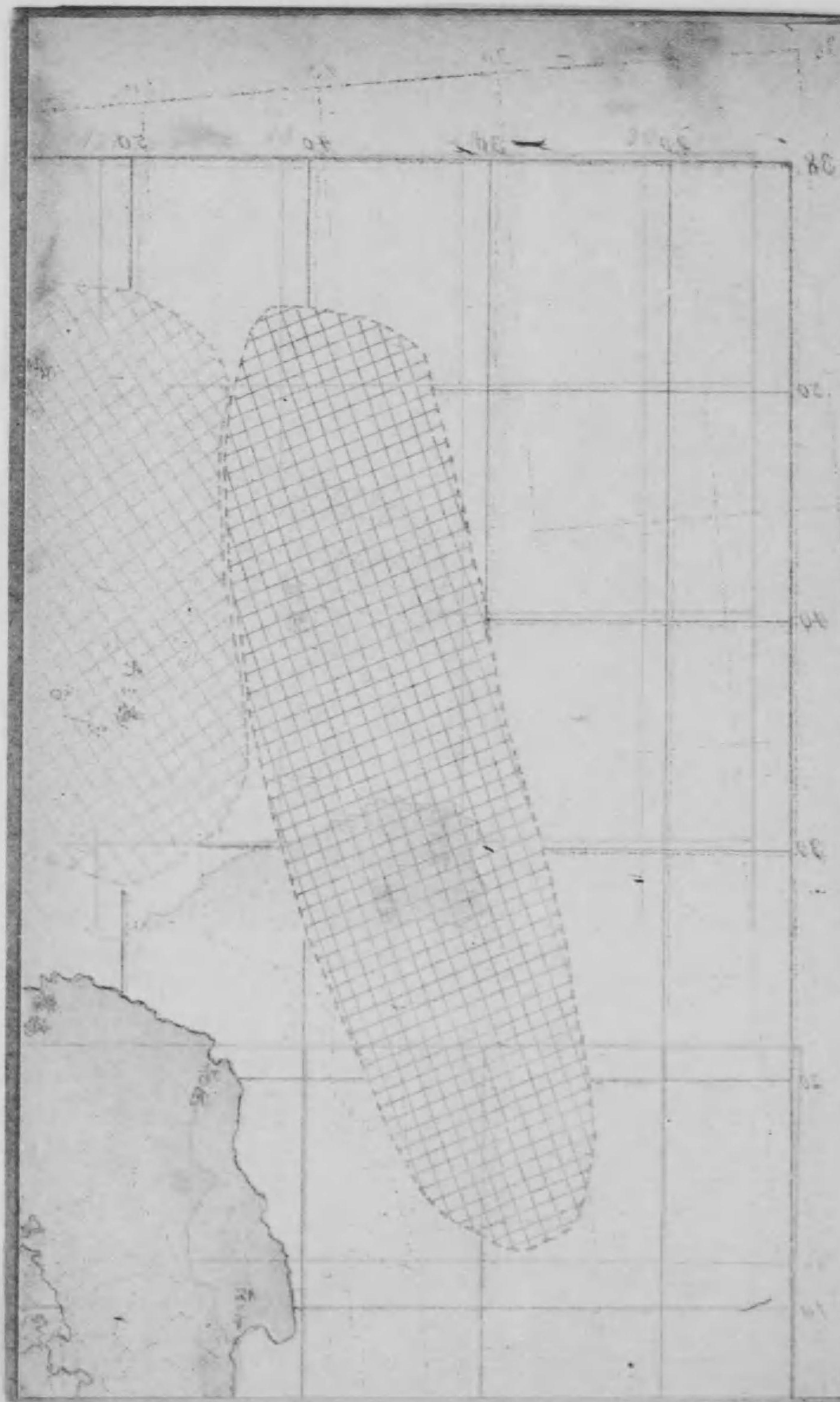
五月地方暴風警報

一日 午前十一時五十分	北部南部全沿岸	風強カルヘシ	五日 正午	縣下全部
四日 午後四時三十分	縣下全部	風強カルヘシ	十日 正午	縣下全部
八日 午後十一時五十分	縣下全部	風雨強カルヘシ	十四日 午後零時二十分	縣下全部
十二日 午前十一時四十分	縣下全部	風雨強カルヘシ	二十日 午後零時二十五分	縣下全部
二十一日 午前十一時三十分	縣下全部	風強カルヘシ	二十四日 午後一時十五分	縣下全部
二十三日 正午	北部南部全沿岸	風強カルヘシ	三十一日 午前十一時五十分	縣下全部
三十日 午後四時三十分	縣下全部	風強カルヘシ		

猶漁具修理ニ對スル準備不完全ナリシ爲一航海毎ニ之レガ整理ニ意外ノ時間ヲ奪ハレタルノミナラズ餌料ノ購入ニ困難ヲ來シ自然操業日數ヲ減殺セラレタルヲ遺憾トス即チ出漁回數十三航海操業日數十五日使用漁具延數量一千七百二十六鉢ニシテ總漁獲高籠一千二百六十貫其他雜魚若干總價格一千二百圓八十六錢二厘ヲ得タリ

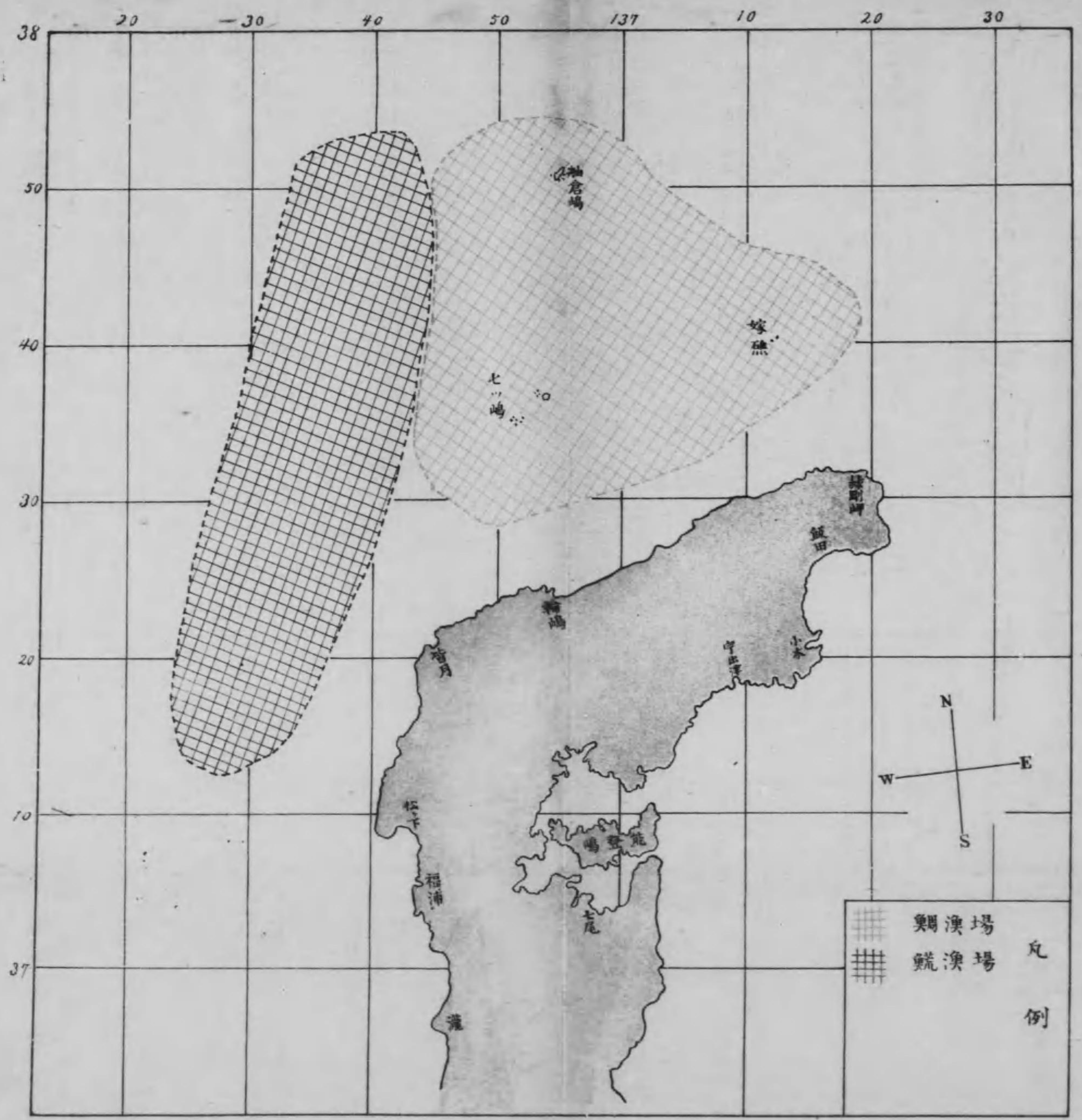
(ト) 試驗日誌表

日 月	候 天	風 向	風 力	漁 具 使 用 時	漁 具 數 量	表 層 水 温	海 底 水 温	潮 向	潮 速	餌 料	水 深	底 質	漁 獲 物
一八 三	B	3 SW		AM9-0 PM4-0	40	9.5 7.5	9.5 10.0	F NE		鯧 鹽	R.S. 90		鯧 鱈 數量 價格
一九 三	R	2 E		AM8-0 PM2-0	50	9.5 10.0	9.5 10.0	S NE		鯧 鹽	S.S.H. 96		鯧 鱈 數量 價格
二八 三	C	3 NNE		AM9-0 PM6-0	80	10.0 10.0	10.0 10.0	S EBS		鯧 鹽	R.S. 90		鯧 鱈 數量 價格
二九 三	B	1 N		AM5-0 PM4-0	77	9.0 11.0	9.0 11.0	S NE		鯧 鹽	R 90		鯧 鱈 數量 價格
一二 四	B	2 ENE		AM6-0 PM6-0	140	11.0 14.0	11.0 14.0	1 1		鯧 鹽	R.S. 85		鯧 鱈 數量 價格
一六 四	C	4 NNW		AM9-0 PM4-0	90	11.5 9.0	11.5 9.0	1 1		鯧 鹽	R.S. 80		鯧 鱈 數量 價格



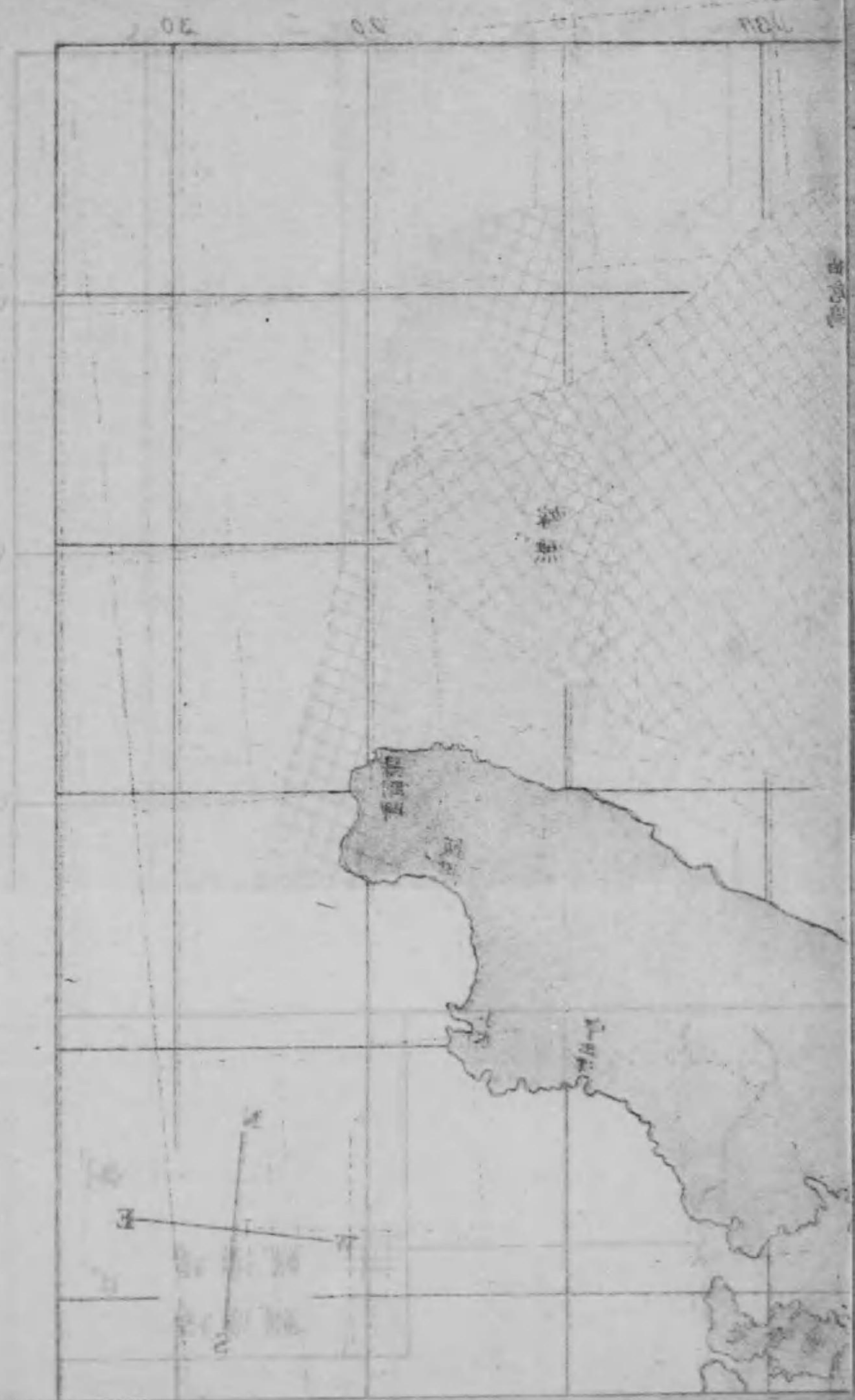
三〇五	一八五	一二五	四五	三五	二六四	一九四
C	B	C	C	B	B	B
1 SE	1 SW	3 E	4 E	6 SW	1 E	2 ENE
AM4-0 PM5-0	AM4-0 PM5-0	AM5-0 PM8-0	AM8-0 PM1-0	AM6-0 PM9-0	AM4-0 PM1-0	AM5-0 PM3-0
150	200	190	42	200	55	100
13.0 15.0	10.5 14.0	11.0 13.0	10.5 12.2	10.5 12.0	12.2 20.0	12.0 10.0
1	F E	S E	F NE	F NE	1 1	1 1
鯷 捕	鯷 捕	鯷 捕	鯷 捕	鯷 捕	鯷 捕	鯷 捕
R.S. 90	R.S. 90	R.S. 85	R.S. 85	R.S. 85	R.SH. 90	R.S. 83
鮫 鯨	鮫 發目魚	發目魚	鯨	鯨	鮫 發目魚	鮫 發目魚
八七,〇〇〇 一一〇,八五〇	一,五〇〇 三五,〇〇〇 一六九,一〇〇	三〇,〇〇〇 一一〇,五〇〇	三五,〇〇〇	四,〇五〇	二,五〇〇 六九,五〇〇 一五,五〇〇	二〇〇,〇〇〇 九,八〇〇 一一四,八〇〇
八,六四〇	六,二九〇 〇〇,二〇〇	五,五四〇 五,三六〇	四,〇〇〇	三,三四〇	二,六八〇 二,六八〇 二,八七〇	九,九四三 四,八四〇 二,五三〇

(一四)



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

五	一八五	二五	四五	三五	二六四	一九
C	B	C	C	B	B	I
SE	1 SW	3 E	4 E	6 SW	1 E	2
AM1-0	AM1-0	AM5-0	AM8-0	AM6-0	AM4-0	AM5
PM6-0	PM5-0	PM8-0	PM1-0	PM9-0	PM1-0	PM1
150	200	190	42	200	55	10
10 15.0	10.5 14.0	11.0 13.0	10.5 12.2	10.5 12.0	12.2 20.0	12.0
I	F E	S E	F NE	F NE	I I	I
鰯	鰯	鰯	鰯	鰯	鰯	鰯
R.S. 90	R.S. 90	R.S. 85	R.S. 85	R.S. 85	R.S.H. 90	R.S.
鰯	鰯 鰯 鰯	鰯	鰯	鰯	鰯 鰯 鰯	鰯
110,000	1,400 1,400 1,400	1,100 1,100 1,100	1,100	1,100	1,100 1,100 1,100	1,100
1,100	1,100 1,100 1,100	1,100 1,100 1,100	1,100	1,100	1,100 1,100 1,100	1,100



一六六	七六
B	B
1 NW	1
AM4-0 PM5-0	AM4-0 PM5-0
159	162
17.0 19.5	15.0 20.0
F ENE	F E
鯖生	鰺生
R.S. 105	R.S. 90
鯖目魚	鰺目魚
一五、五〇〇	三三、〇〇〇
二、五〇〇	四〇、〇〇〇
七、七〇〇	三〇、〇〇〇
	一五、四六一
	五、六五〇
	四、一〇四
	四、三七七
	一、六四〇
	四、二五〇
	二、三四〇

六、鯛延縄漁業

(イ) 期間

本縣ニ於ケル鯛漁期ハ周年ニ亘リ各種ノ漁具ヲ以テ漁獲シツ、アレトモ延縄ヲ以テスルニ最モ好時期ハ秋季十月以降十二月ニ至ル間ニシテ之レヲ最モ有利ナル期間トス、サレハ本試験ハ十一月一日ヨリ十二月五日ニ至ル三十五日間ニ於テ實施シタリ

(ロ) 漁場

海深二三十尋ヨリ五六十尋ニ至ル沿岸一帯ハ鯛ノ漁場ナリト雖モ殊ニ嫁鰹七ツ島附近岩礁ノ邊縁ニハ最モ濃密潤澤ナリ而シテ此ノ漁場ハ底質貝殻砂ノ部最モ多シ鯛ハ時期ニヨリ浮沈移動シ夏季ニ於テハ比較的淺所二三十尋ニアルモ秋冷ノ季ニ至レバ漸次深所ニ移動スルガ如シ此ノ漁場ニ於テハ血鯛連子鯛等ヲ混スルト雖モ主トシテ大鯛ノ群游スルモノ多ク魚体モ平均二百目廻リノモノ多シ

(ハ) 漁具

延縄一鉢ノ構造左ノ如シ

幹繩南京麻右二子燃百尋ノ目方八十五丈大ノモノ一鉢ノ長サ百尋
枝糸金引麻右二子燃百尋ノ目方十七丈大ノモノ一本ノ長サ二尋
幹繩五尋間ニ一本ヲ付シ一鉢二十本付トス
釣針丸型大サ八分

浮標繩金引麻右二子燃百尋ノ目方百五十丈大ノモノ一本ノ長サ八十尋
幹繩六鉢ニ付一本ヲ使用ス
浮標桶籠延繩ト同一ノモノヲ使用ス

沈石、平均百丈大ノ石ヲ幹繩三鉢ニ一個ヲ付ス
浮標繩ニハ平均四百丈大ノ石一個ヲ使用ス

繩鉢竹籠外徑一尺六寸

染料大谷式染

價格 延繩一鉢 金壹圓參拾錢
浮標繩一鉢 金貳圓

(二) 漁具使用量

漁艇一隻ノ漁具使用可能數量ハ平時ニ於テ一時間八枚(母船ニテ投繩シ漁艇ニテ揚繩ス)ヲ限度トスルガ故ニ一日ノ使用量ハ百枚ヲ極限トス

漁具整理ニ要スル時間ハ一鉢約九分トス

(ホ) 餌料

鯛餌料トシテハ蝦柔魚鮪鰯其他ヲ使用スルト雖モ何レモ一時ニ多量ノ需用ニ應スルコト目下ノ場合ニ於テハ困難ナレハ供給不足ノ爲出漁ニ支障ヲ來スヲ以テ本試驗ニ於テハ常ニ油柔魚ヲ使用セリ

延繩百枚ニ付約一貫五百丈ノ油柔魚ヲ要ス
油柔魚百丈ノ價格金貳拾錢也

(ハ) 試驗ノ經過及成績

試驗ニ關スル凡テノ準備ハ全部籠試驗ノ場合ト同一ナリ

十一月一日ヨリ十二月五日ニ至ル間ニ於テ實施シタルモ本年ハ例年ニナク南西ノ強風連吹シタル爲常ニ潮流急劇ニシテ殆ント投繩可能ノ日子ナク以上ノ三十五日間ニ於テ出漁回数僅ニ六航海操業日數五日ニ過ギスシテ漁具使用延數量二百十五枚漁獲高鯛五十七貫七百丈價格百〇九圓六十四錢ヲ得タリ

七、結 論

本試驗ハ本年始メテ着手シタルモノニシテ漁撈ノ設備組織方法漁具ノ構成等ニ關シテ大イニ考究スヘキ點尠カラズ叙上ノ試驗成績ヲ以テ直チニ本縣沖合ニ於ケル母船式漁業ニ就テ云々スルハ未タ早計ノ譏アリト雖モ該漁業ハ大体ニ於テ大ニ囑望スヘキモノアリ

即チ發動機船ノ利用ニヨリテ漁場ノ範圍ヲ廣メ漁具ノ使用率ヲ増加シテ漁獲ヲ増進セシムルト同時ニ航海ヲ安全迅速ナラシメ時間ト勞力トノ冗費ヲ防キ漁獲物ノ販賣ヲ自由ニシ魚價ヲ昂騰セシムルコトヲ得ルノ利ハ之レガ爲メニ膨大スル費ヲ償フテ餘リアルコトヲ現實ニ認識シ得タリ今後尙ホ研究試驗ノ度ヲ高メ操業上ノ改善ヲ計ランニハ必スヤ有利事業ノ成立ヲ見ルニ至ルヘシト信ス

第二 しいら旋網漁業試験

主任技手 田中耕之助

本試験ハ前年度ヨリノ繼續試験ニシテ本年度ニ於テモ前年同一ノ漁法ヲ以テ旋網試験ヲ實施シタリ

一、期 間

本縣ニ於ケル歸ノ來游時季ハ年ニヨリテ多少ノ差異アリト雖モ一般ニ六月下旬ヨリ十一月下旬ニ至ル期ナリ而シテ加賀沿岸ニ於テハ早ク六月下旬ヨリ十月下旬ニ至リ能登方面ニ於テハ七月下旬ヨリ十一月月上旬ニ至リ能登内浦方面ハ最モ遅ク八月中旬ヨリ十一月下旬ニ至ル期間トス本年ノ來游狀態モ亦例年ト大差ナカリキ
當場ニ於テハ八月一日ヨリ漬ノ製作ニ着手シ同月十五、十六兩日ヲ以テ別圖漁場ニ浮設シ同月十七日ヨリ十月二十日ニ至ル六十五日間ニ於テ試験ヲ實施シタリ

二、漁 場

本年度ニ於テハ漁場ヲ能登半島尖端沖合トシ能越海灣ニ來游スル漁群ノ通路ヲ扼シテ漬四個ヲ敷設シタリ
水深二百五十尋ヨリ三百五十尋ニ至リ底質軟泥質ナリ別紙漁場圖ノ如シ

三、漁 具

前年試験ノ成績ニ鑑ミ漁具ノ構造ニ左ノ改良ヲ加ヘタリ
前年ニ於テハ投網ニ際シ常ニ魚捕部ノ網形整ハス箕底ノ部ガ褶縮混亂シテ伸張スルコトナク袖ト箕底トノ縫着部收縮シテ魚ノ乘リ惡シク爲メニ圍繞シ得タル魚群ヲ空シク逸シタルコト屢々ナリ、レハ袖ト箕底トノ間ニ左ノ如キ網地ヲ投入



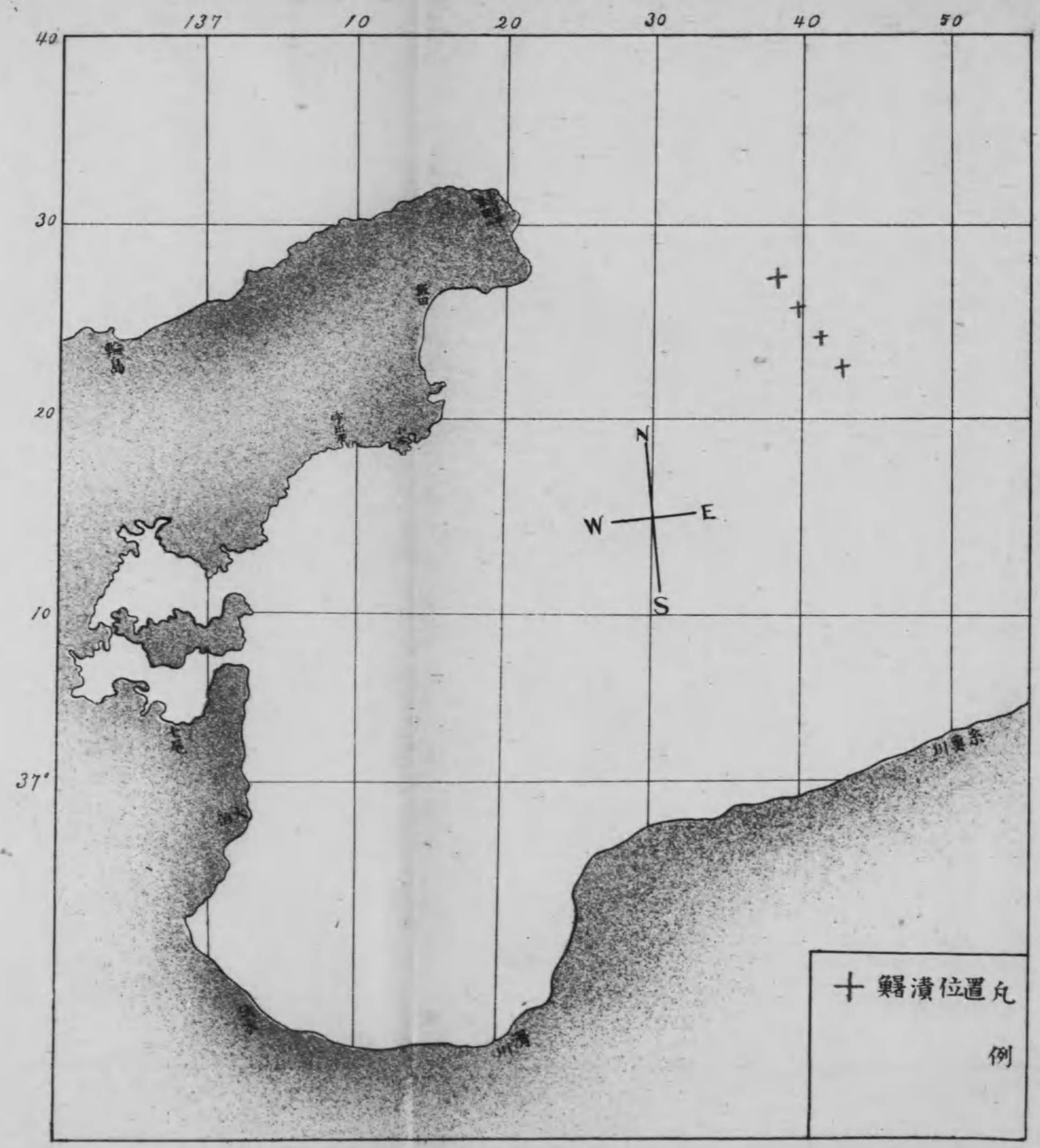
本縣ニ於ケル鰯ノ來游時季ハ年ニヨリテ多少ノ差異アリト雖モ一般ニ六月下旬ヨリ十一月下旬ニ至ル期ナリ而シテ加賀沿岸ニ於テハ早ク六月下旬ヨリ十月下旬ニ至リ能登方面ニ於テハ七月下旬ヨリ十一月月上旬ニ至リ能登内浦方面ハ最モ遅ク八月中旬ヨリ十一月下旬ニ至ル期間トス本年ノ來游狀態モ亦例年ト大差ナカリキ
當場ニ於テハ八月一日ヨリ漬ノ製作ニ着手シ同月十五、十六兩日ヲ以テ別圖漁場ニ浮設シ同月十七日ヨリ十月二十日ニ至ル六十五日間ニ於テ試驗ヲ實施シタリ

二、漁 場

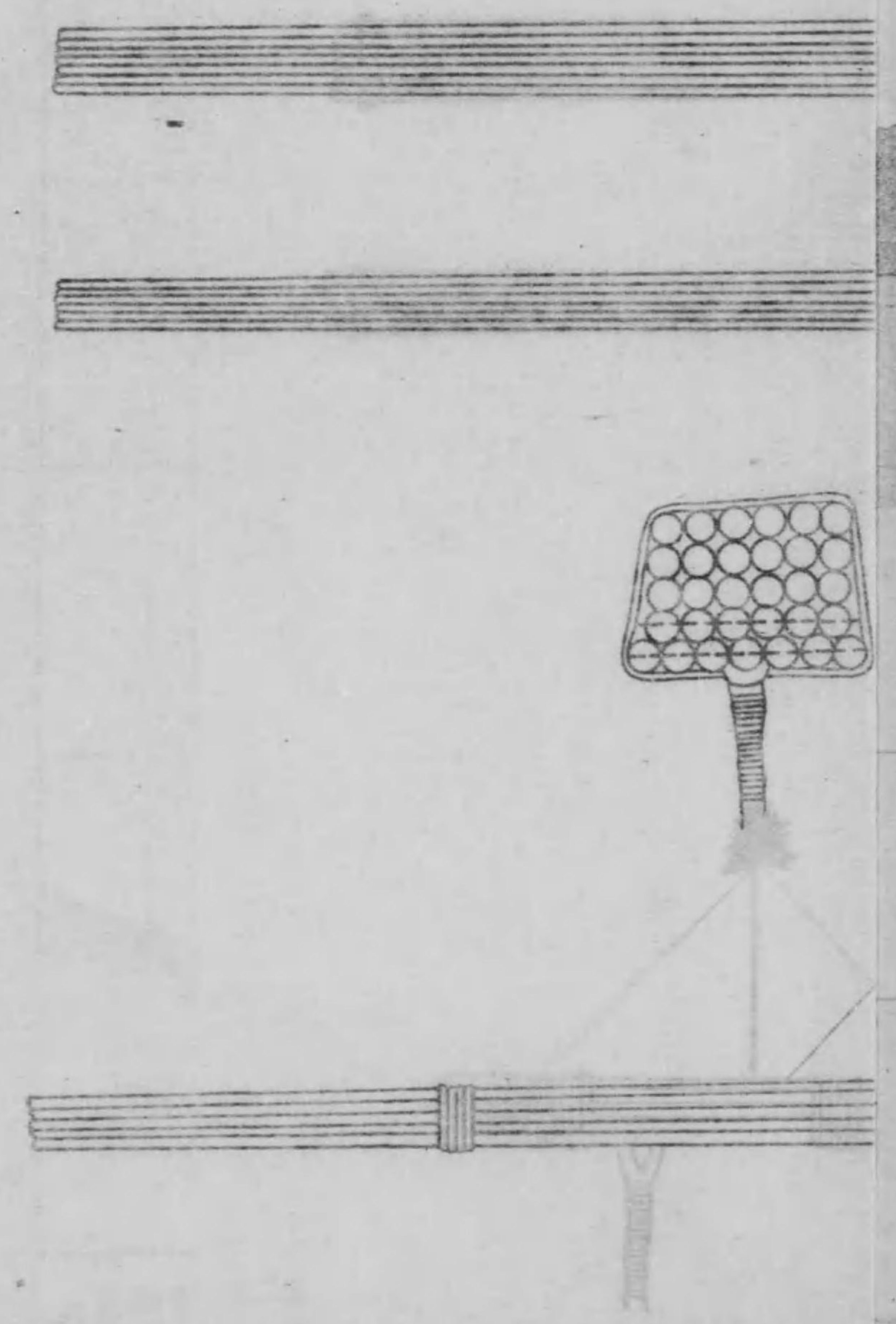
本年度ニ於テハ漁場ヲ能登半島尖端沖合トシ能登海灣ニ來游スル漁群ノ通路ヲ扼シテ漬四個ヲ敷設シタリ
海深二百五十尋ヨリ三百五十尋ニ至リ底質軟泥質ナリ別紙漁場圖ノ如シ

三、漁 具

前年試驗ノ成績ニ鑑ミ漁具ノ構造ニ左ノ改良ヲ加ヘタリ
前年ニ於テハ投網ニ際シ常ニ魚捕部ノ網形整ハス箕底ノ部ガ褶縮混亂シテ伸張スルコトナク袖ト箕底トノ縫着部收縮シテ
レハ袖ト箕底トノ間ニ左ノ如キ網地ヲ投入

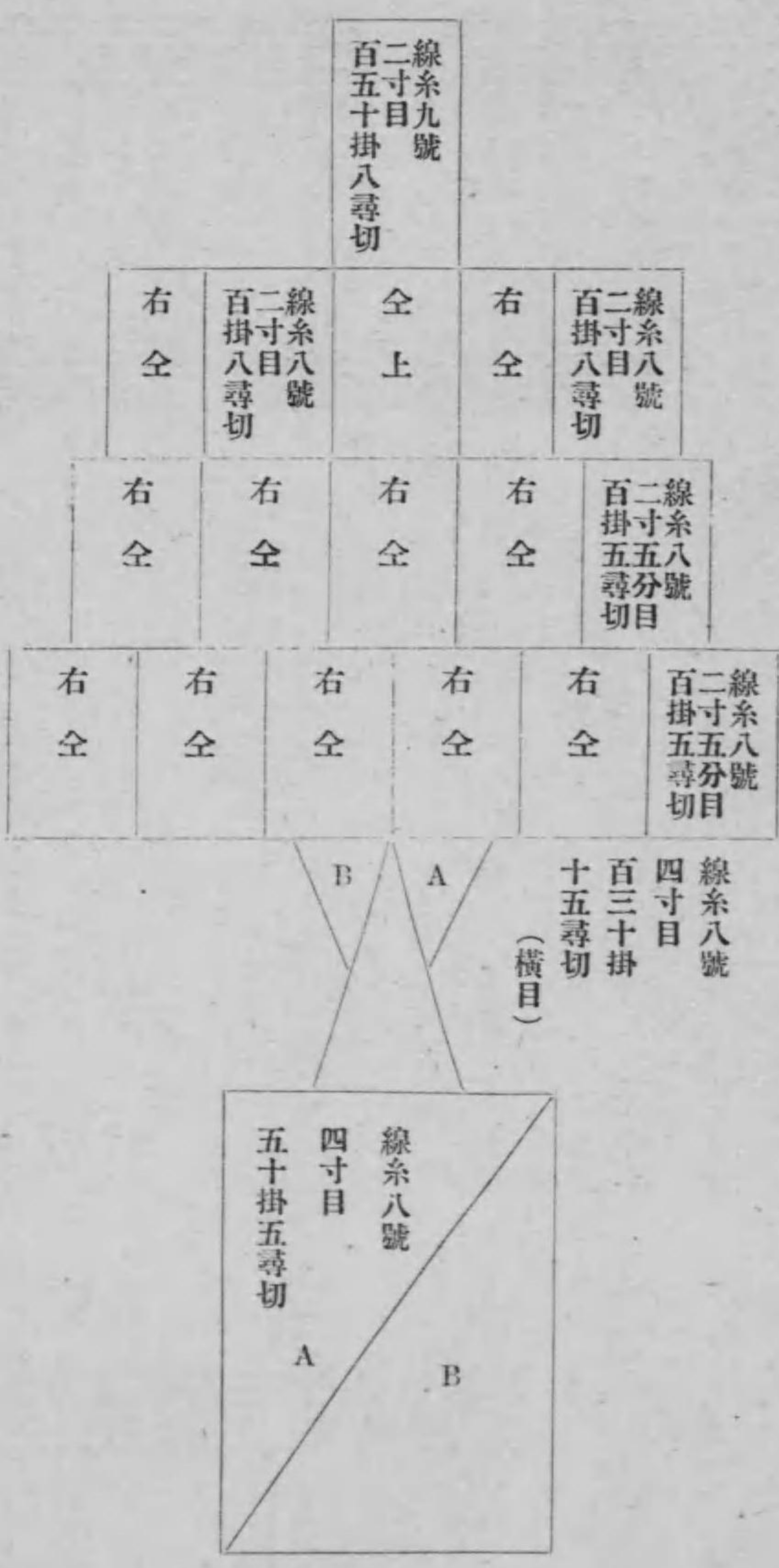


十 鰯漬位置凡 例



シテ其部ノ收縮ヲ防グト同時ニ沈子繩ヲ延長シ魚捕部網形ノ整頓ヲ計リタリ

D	C	B	A	流番號
號	號	號	號	號
全	全	全	全	浮
三十二本	三十五本	三十五本	三十八本	竹
二	三	三	三	漁場水深
百五十尋	百二十尋	百二十尋	百五十尋	
全	全	全	全	繩ノ太サ
右	右	右	右	一寸一分
四	四	五	五	繩ノ長サ
百尋	百八尋	百五十尋	百五十尋	
全	全	全	全	土
全	全	全	全	十七貫目
右	右	右	右	十二
				俵



四、漁 况

本年度ニ於テハ漁期ヲ通シテ大群ノ來游ヲ見ス殊ニ初期即チ土用鰯ノ群來稀薄ナリシ爲漁民一般ニ憂慮ノ色アリシモ終期
 彼岸鰯ノ來游ヲ見ルニ至リ漸ク愁眉ヲ開キタリ魚ハ初期ニハ大ニシテ平均シタルモ終期ニ近クニ從ヒ漸次大小混合シ次第
 ニ小形ノモノ多キニ至リ十月中旬ヨリハ水温急降シタル爲魚群モ亦其ノ影ヲ沒セリ又漁期間ヲ通シテ沖濱ニ薄クシテ灘濱
 ニ厚カリシ傾向アリ

五、試驗ノ經過及成績

前年同様ニ發動機船ヲ母船トシ二艘ノ網船ヲ曳航シ兩手旋網漁法ヲ以テシタリ
 場地宇出津港ヲ根據地トシ往復試驗ヲ實施シタリ漁場巨離二十五哩ニシテ片路四時間ヲ要セリ
 初期殆ンド魚影ヲ認メザルニ八月下旬ヨリ突如虎疫猖獗ヲ極メ其ノ盛期タル九月ニ入りテヨリハ能登内浦一体ハ漁業ヲ禁
 止セラレタルノミナラス漁獲物ノ賣買ヲモ禁セラレタルヲ以テ當場ニ於テモ公衆ノ衛生上試驗ヲ中止スルノ已ムナキニ立
 チ至リ同月二十七日迄休漁セリ而シテ以後十月二十日ニ至ル間ニ於テ出漁日數二十日投網回數七十五回漁獲高鰯百二十一
 尾價額金四拾壹圓九拾參錢ヲ得タリ

六、試驗日誌表

日 月	候 天	風 向	風 力	時 使 漁 具	回 使 漁 具	水 表	温 層	比 準 表 層	重 度 標	料 餌	潮 潮	速 向	種 漁	類 獲	數 量	價 物	額
-----	-----	-----	-----	---------	---------	-----	-----	---------	-------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---

三 九	一 九	二 六 八	二 〇 八	一 九 八	一 六 八	一 五 八
B	C	B	B	C	C	C
3 SW	4 W	1 NE	2 NE	2 NE	1 W	1 E
AM5-30 AM8-0	AM 6-0 AM10-0	AM 6-0 AM10-0	AM 8-0 PM10-0	AM6-0 PM9-0		
6	2	8	5	5	1	1
26.0	25.5	26.0	25.7	25.5	26.5	26.0
1.02574	1.02561	1.02563	1.02553	1.02527	1.02569	1.02540
魚 柔	鰯 魚 柔	魚 柔	魚 柔	魚 柔		
S NW	S N	S W	S SE	S SSE	S NE	S NE
鰯	鰯	鰯		鰯		
15	1	7	1	1	1	1
5,100	3,450	11,215	1	3,450	1	1

本試験ハ大正四年度以來繼續施行セル貯雪冷蔵庫試験ト同時ニ該庫ノ利用試験トシテ冷蔵薄鹽魚ノ販賣試験ヲモ實施セルモノトス

製造部
第一冷蔵試験

一、試験ノ趣旨

主任技手 志村彦藏

二〇〇	一八〇	一六〇	一〇〇
C	B	C	C
3 NW	2 E	3 E	4 NE
1	AM10-0 PM 1-0	AM10-0 PM 2-0	AM10-0 PM 1-0
1	4	6	2
21.0	21.0	21.5	21.5
1,02533	1,02545	1,02596	1,02518
1	鮪小魚柔	鮪小魚柔	鯉生
1	F W	W S	F W
1	鱈	鱈	鱈
1	七	七	一
1	1,100	6,000	2,500

(111)

九〇	七〇	三〇	二〇	二九	二七	六九
B	C	B	B	R	C	C
4 NNE	3 E	1 S	1 NE	4 E	2 NW	5 SW
AM9-0 PM1-0	AM6-0 AM8-0	AM9-0 PM1-0	AM 9-0 AM11-0	AM6-0 AM8-0	AM 6-0 AM11-0	AM 6-0 AM11-0
8	2	8	4	2	8	5
22.0	23.0	21.3	24.0	24.0	24.0	25.5
1,02573	1,02511	1,02558	1,02535	1,02525	1,02535	1,02537
鯉鹽魚柔	鯉鹽	魚柔	魚柔	魚柔	魚柔	魚柔
F SW	E SW	F SW	S NNE	S SE	F SW	S SW
鱈	1	鱈	鱈	1	鱈	鱈
二〇	1	三〇	一	1	二〇	一
六、八〇	1	10、100	五、〇〇	1	五、〇〇	三、五〇

(111)

二、貯雪冷蔵庫試験

本試験ハ大正四年度ニ於テ鳳至郡黒島村ニ貯雪冷蔵庫ヲ設備セシニ其後暴風雨ノ被害ニヨリ甚シキ破損ヲ生シ翌大正五年度夏季ニ於テハ豫期ノ成績ヲ擧クルヲ得サリシガ更ニ修繕ヲ施シ本年度ニ於テ繼續實施セル試験ニシテ該冷蔵庫ハ修繕工事ヲ要スル關係上豫メ冬季ニ於テ降雪ヲ該庫ニ貯藏スルヲ得サリシヲ以テ六月二十七日ニ至リ別ニ貯藏セル雪ヲ搬入シテ貯雪室ニ詰メ起塞セシメタルニ冷蔵庫ノ溫度ハ攝氏五度半ニ降下シテ同溫度ヲ持續シ略ホ豫期ノ低溫ニ達セシムルヲ得タリ今之レヲ前年度ノ試験當時ニ於ケル該庫ノ最低溫度九度乃至十一度ニ比較セハ著シク其ノ冷蔵能力ヲ増進セルモノトス

(4) 貯雪冷蔵庫ノ構造

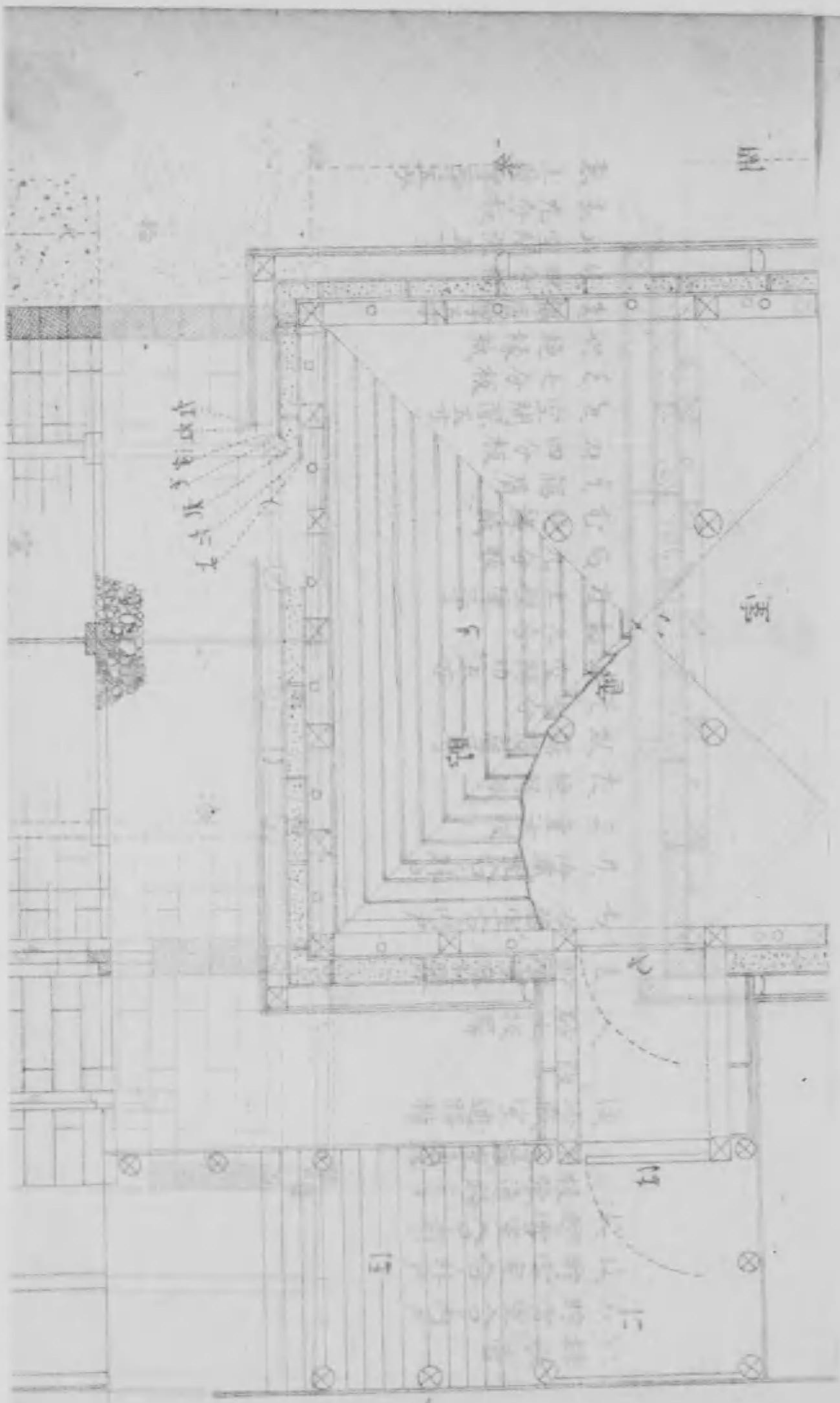
本年度ニ於テ修理完成セル本冷蔵庫ノ構造概要ハ間口三間奥行三間ノ二階建屋根板葺ニシテ階下室ハ周圍石造高九尺ニシテ之レヲ冷藏室トシ階上室ハ木造ニシテ最下天上迄ノ高サ六尺アリ之レヲ貯雪室トス上下兩室共正面ノ中央ニ巾四尺、高五尺六寸ノ開戸ヲ各二重ニ設ケ冷藏室ハ勿論貯雪室ノ下部二、三尺ノ處迄ハ砂中ニ埋没シテ建設シ冷藏室出入口ノ通路ハ地盤ヲ掘下ケテ石段ヲ設ク

冷藏室ハ砂地ニ埋没セラレタル石造室ニシテ經費ノ都合上熟ノ絶縁装置トシテ特種ノ構造ヲ施サバリシモ階上室ナル貯雪室ハ其周壁及ヒ天井部ハ嚴密ナル絶縁的構造ト爲シ更ニ柿板葺屋根ヲ添ヘタリ其構造次圖ノ如シ

貯雪室ノ床ハ中央ニ向テ流シ勾配ヲ附シ巾四寸ノ板ヲ一寸ノ隙間張ト爲シ之レニ亞鉛引鐵板ヲ張り詰メ融解水ハ中央ノ排水管ニ依リテ冷藏室内ノ砂地ニ汲收セシムル装置トス

□ 試験方法及成績

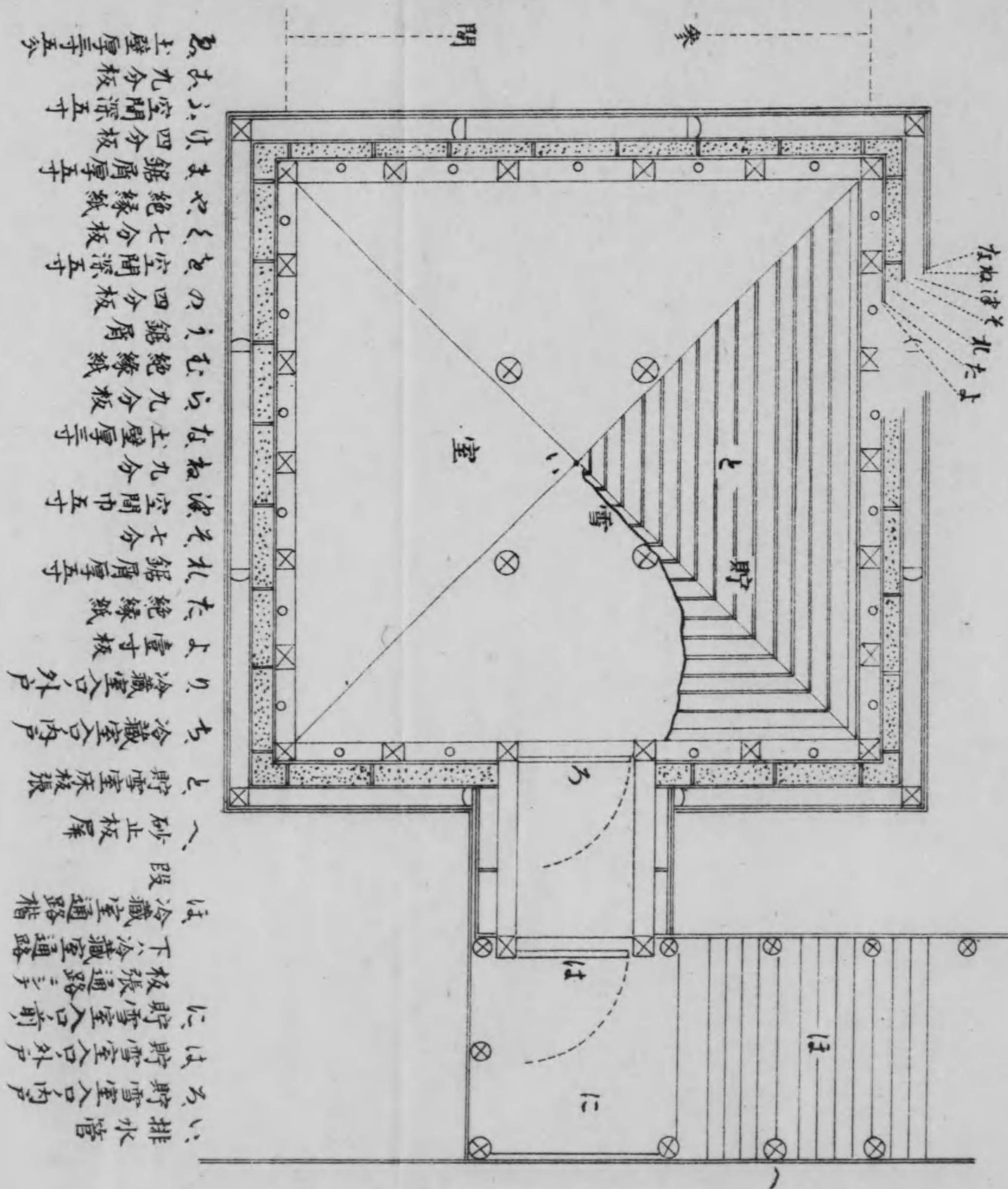
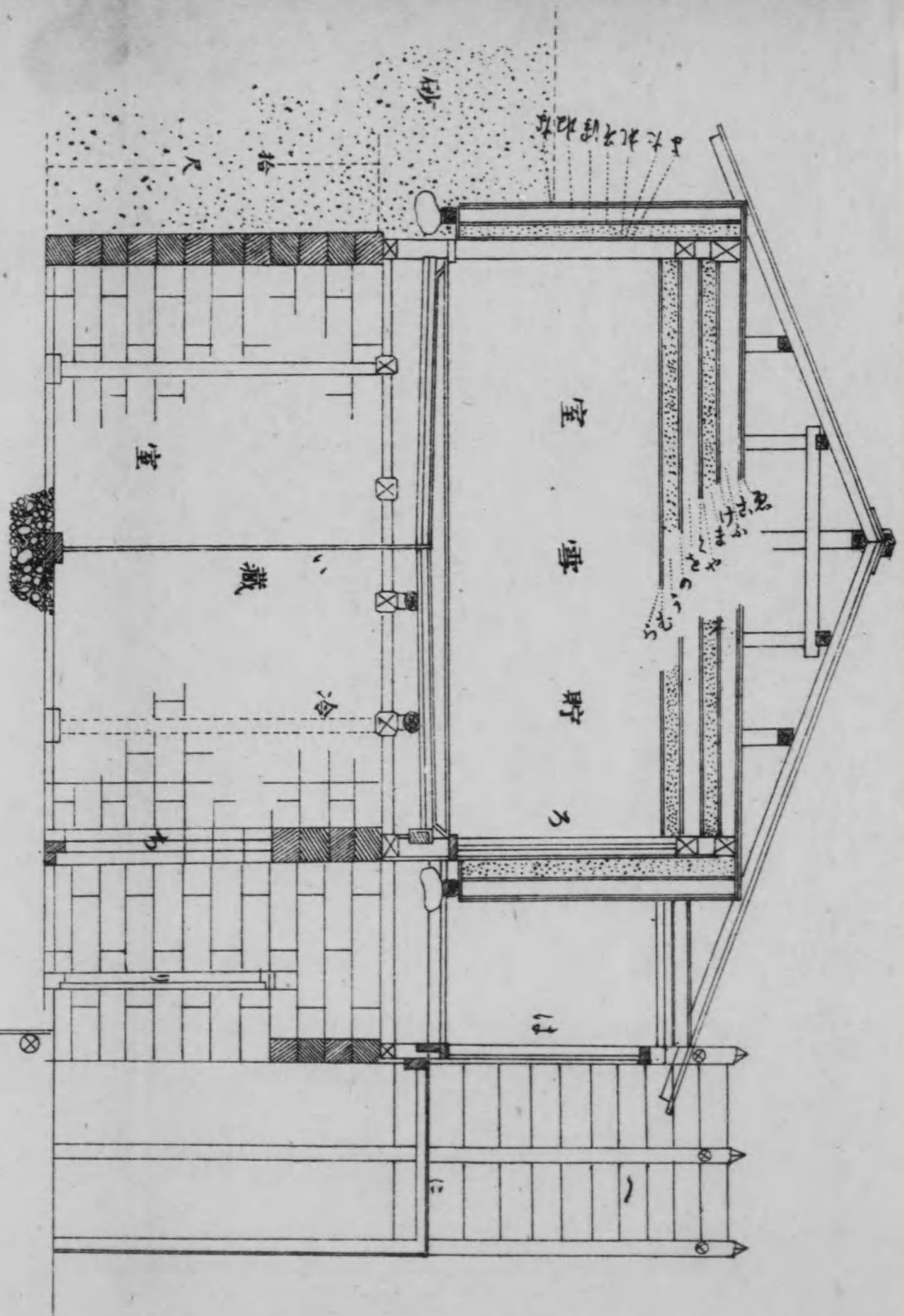
六月二十七日雪三千三百一十一貫三百匁ヲ貯雪室ニ詰メ之レニ食鹽八十斤ヲ撒布シ起塞セシメタルニ冷蔵庫ノ溫度ハ攝氏二



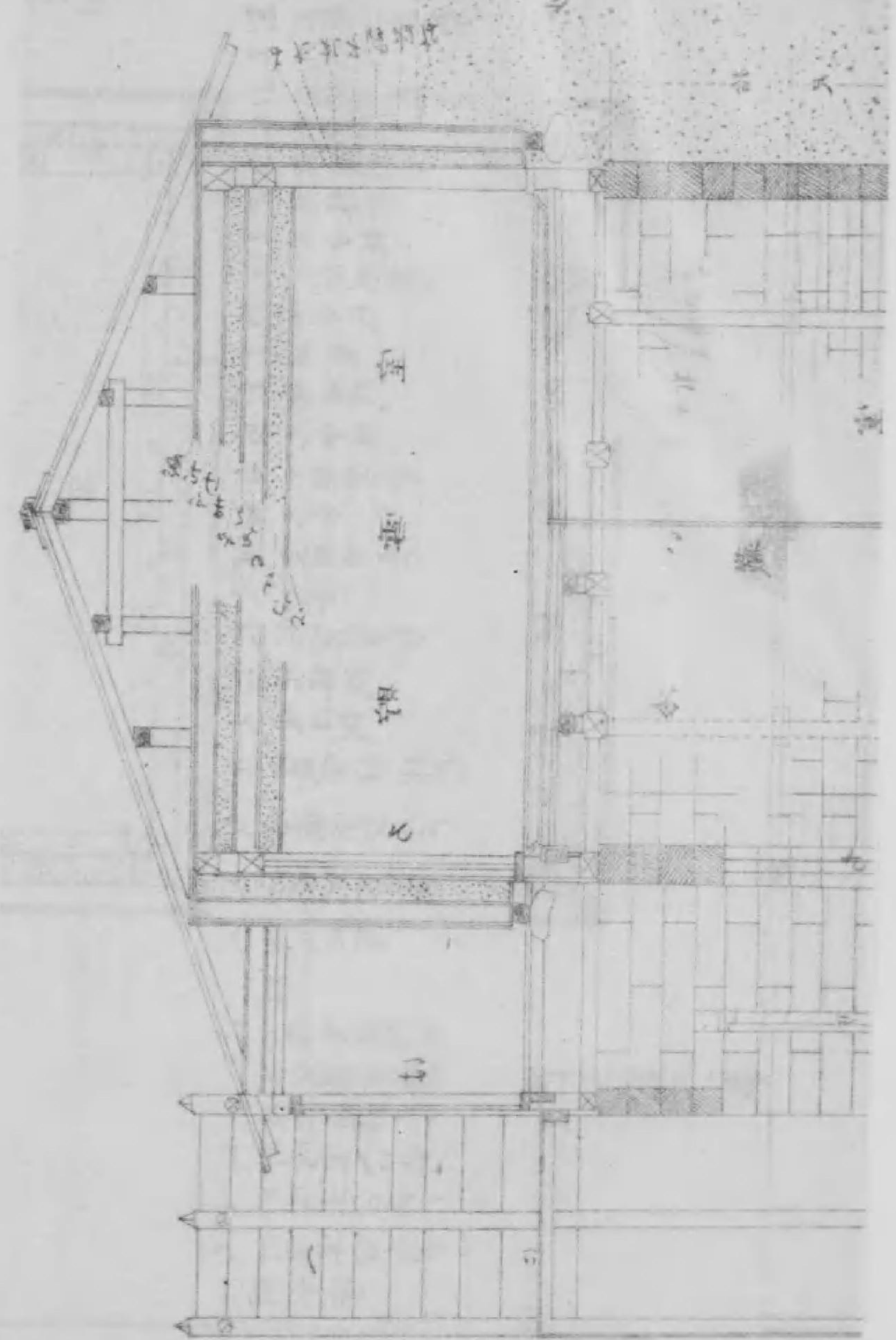
水管ニ依リテ冷蔵庫内ノ砂地ニ汲收セシムル装置トス

□ 試験方法及成績

六月二十七日雪三千三百十一貫三百九ヲ貯雪室ニ詰メ之レニ食鹽八十斤ヲ撒布シ起塞セシメタルニ冷蔵庫ノ溫度ハ攝氏二



六 排水管
 五 貯雪室入口内戸
 四 貯雪室入口外戸
 三 貯雪室入口前板張通路三寸
 二 下冷蔵庫通路
 一 冷蔵庫通路
 〇 砂止板扉
 〇 貯雪室床板張
 〇 冷蔵庫内戸
 〇 冷蔵庫外戸
 〇 壹寸板
 〇 絶縁紙
 〇 鋸屑厚五寸
 〇 七分
 〇 空巾五寸
 〇 九分
 〇 土壁厚三寸
 〇 九分板
 〇 絶縁紙
 〇 鋸屑厚五寸
 〇 四分板
 〇 空巾五寸
 〇 七分板
 〇 絶縁紙
 〇 鋸屑厚五寸
 〇 四分板
 〇 空巾五寸
 〇 九分板
 〇 土壁厚五寸



十七度ヨリ漸次低下シテ六月三十日ニ至リ五度半ニ降下シ爾後同温度ヲ持續スルヲ以テ七月一日ヨリ鮮魚並薄塩魚ヲ冷蔵室ニ入レ其ノ經過ヲ試験セリ

本試験ニ供セシ鮮魚ノ種類ハ鯖、鮭、鰯ノ三種ニシテ生鯖ハ三日乃至四日生鮭、生鰯ハ五、六日間鮮度ヲ保持シ又薄塩魚ハ鯖、鰯、鮭ヲ用ヒ何レモ二十日間冷蔵セシニ塩量一割五分以上ヲ使用セル製品ハ何等變敗ノ傾向ヲモ示スコトナク極メテ新鮮ノ状態ニシテ殆ント永久的貯蔵ヲ爲シ得ルモノト認メタリ而シテ以上ニ試験ノ方法經過成績並ニ温度觀測表ヲ示スコト次ノ如シ

種類	数量	入室日時	試験方法	成績
鯖	五尾	七月二日午前九時	生鮮ノ儘竹籠ニ入レ腐敗ニ至ル迄冷蔵室ニ置キタリ其間時々一尾宛取り出し試食其ノ他ノ方法ニヨリ鮮度ヲ試験セリ	三、四晝夜間新鮮ニ保存シ得ルコトヲ確メタリ七月六日午後六時皮膚乾燥シテ美ナラス腐敗ハ少シク臭氣アリ焼肉トシテ試食セシニ味稍劣レリ
鰯	三尾	七月一日午後六時	同上	五、六晝夜間新鮮ニ保存シ得ルコトヲ確メタリ七月八日午後四時眼ニ粘質物ヲ生シシニ味稍劣レリ肉色ハ良好ナレトモ軟カクシテ食用ノ價値ナキヲ認メ
あら	三尾	七月一日午後六時	同上	五、六晝夜間新鮮ニ保存シ得ルコトヲ確メタリ七月七日午後六時鹽少シク臭氣アリ肉ハ蒸食ニシテ組織ハ脆ク味稍劣レタリノ感アレトモ食用ニ

前表ノ成績ニヨリ推考スル時ハ豫メ魚体ノ鰓、内臓ヲ除去シテ冷蔵ヲ爲サバヨリ以上長期ノ保存ニ堪ユルコト明カナルカ故ニ罐詰其他製造原料ノ貯蔵場トシテ本冷蔵室ヲ使用セハ其利益尠少ナラサル可シ

種類	数量	冷蔵期間	試験方法	成績
薄塩鯖	二二〇尾	自七月一日至七月廿一日	昔開一割五分鹽漬込ミノ儘二十日間冷蔵後荷造シテ名古屋ニ輸送ス	荷造當時極メテ新鮮ニシテ變敗ノ徴候ナク認メス

薄鹽鯖	薄鹽鯖	薄鹽小鱈	薄鹽小鱈	全	全
三〇〇	一三二	一五	八	自七月廿一日	自七月廿一日
至七月廿一日	自七月廿二日	自七月廿七日	自七月廿七日	至七月廿一日	自七月廿一日
昔開二割鹽漬込ミノ儘二十日間冷蔵後荷造シテ名古屋ニ輸送ス	昔開二割五分鹽漬込ミノ儘二十日間冷蔵後荷造シテ名古屋ニ輸送ス	昔開二割五分鹽漬込ミノ儘十四日間冷蔵後荷造シテ名古屋ニ輸送ス	昔開二割五分鹽漬込ミノ儘十三日間冷蔵後荷造シテ名古屋ニ輸送ス	調理セス一割五分鹽漬込ニテ何日間保存シ得ルヤチ試験セリ二十日間冷蔵後地實ス	調理セス一割六分鹽漬込ミノ儘二十日間冷蔵後地實ス
全	全	全	全	全	全
				十五日間新鮮ニ保ツテ得タリ	

備考 本表ノ試験品薄鹽鯖及薄鹽小鱈ノ全部及薄鹽小鱈十五貫ハ次ニ記述スル冷蔵薄鹽魚販賣試験ニ供セリ

溫度觀測表

外室 冷蔵	時刻	内室 冷蔵		溫度 月日
		低	高	
24.0	時二後午	8.0	17.0	八日 六月
22.0	時六前午	6.0	7.0	九日 六月
25.0	時二後午			日三十 六月
22.0	時六前午	5.5	6.0	一日 七月
26.0	時二後午			二日 七月
22.0	時六前午	5.5	6.0	三日 七月
26.0	時二後午			四日 七月
22.0	時六前午	5.7	6.0	五日 七月
22.0	時六前午	5.5	6.5	六日 七月
24.0	時二後午			七日 七月
22.5	時六前午	5.5	6.0	八日 七月
27.0	時二後午			九日 七月
22.0	時六前午	5.5	6.0	十日 七月
24.5	時二後午			日十二 七月
25.5	時六前午	5.5	6.0	日十五 七月
30.5	時二後午			日十八 七月
27.0	時二後午	5.5	6.5	日十九 七月
23.0	時六前午	5.8	6.5	
27.0	時二後午	6.0	6.5	
		6.0		
		7.0		
		7.5		
		8.0		
		8.5		

三、冷蔵薄鹽魚販賣試験

能登外浦方面ニ於ケル鯖ハ年々多額ノ漁獲アレモ交通不便ノ爲メ價格常ニ低廉ニシテ一尾一錢七、八厘ヲ普通相場トス其ノ多クハ四十貫一俵ト稱シテ生鯖四十貫(四十貫ノ鯖ヲ調理シテ鰓、臟腑ヲ除去シ正味三十二貫位トナル)ニ對シ食鹽八十斤内外ヲ使用セル鹽漬漬トシテ販賣スルモノニシテ此ノ鹽量ハ恰モ四割内外トナリ鹹味強烈ニシテ佳味ナラサルヲ以テ本場ニ於テハ冷蔵庫ヲ利用シ可及的薄鹽製ト爲シ鮮魚ニ近似セル香味ヲ保有セル儘長期ノ保存ニ堪ヘシメ市場ノ景況ヲ見計ラヒテ販賣ヲ爲スノ目的ヲ以テ本年度ニ於テ始メテ之レガ試験ヲ行ヒタルモノトス

(イ) 試験ノ方法

本試験ノ原料魚ハ鯖ノミヲ供用スル豫定ナリシガ能登外浦ニ於ケル本年ノ鯖漁業ハ實ニ近年稀有ノ不漁ニシテ豫定ノ數量ヲ購入シ能ハザリシ爲止ムナク之レガ補充トシテ鯖ノ外小鱈及小鱈ノ少量ヲモ試験材料ニ供セリ而シテ本試験ニ供セシ薄鹽魚ハ前記ノ貯雪冷蔵庫試験ニ薄鹽漬トシテ十三日乃至二十日間冷蔵シ其ノ經過ヲ試験シタル鯖五百五十二尾小鱈八貫(生目)小鱈十五貫(生目)ニシテ之レヲ七月二十日乃至二十日樽詰荷造ト爲シ名古屋市ニ輸送シテ試賣ヲ爲セリ

製造法 鯖ハ鰓蓋以下背開トナシ鰓及内臟ヲ除去シ海水ヲ湛ヘタル桶中ニ投シ約十五分時間血抜ヲ爲シ此ノ間一尾宛節ヲ以テ汚物ヲ洗除シ水切後秤量シテ冷蔵室内ニ運ヒ之レヲ三分シテ魚体調理後重量ノ一割五分、二割、二割五分ノ鹽量ヲ以テ各撒鹽法ニヨリ皮肌ヲ下向ケトシテ桶ニ漬ケ込ミ最上層ハ反對ニ向ケ並ヘ上部ニ鹽莖ヲ覆ヒ約二晝夜ヲ經過シテ後輕壓ヲ加ヘ後兩三日ヲ經テ漬替ヲ爲シ直ニ輕壓ヲ施シ翌日ヨリ漸次重壓ト爲シ冷蔵室内ニテ充分鹽ノ浸透セルヲ待チテ荷造樽ニ詰メ輸送ス荷造樽ハ橢圓形ニシテ深一尺短徑一尺五寸長徑一尺六寸五分ニシテ之ニ薄鹽鯖六十尾乃至六十六尾(正味重量平均八貫八百匁)ヲ詰メ尙鹽汁約三貫宛ヲ注加シ堅ク蓋嵌シテ繩掛荷造セリ一樽ノ總重量ハ平均十三貫五百匁トナレリ

薄塩鯖ノ製造歩留ハ次ノ如シ

用鹽割合	生尾數	重、量	調理後	重、量	重、量	製、品	附、記
一割五分鹽	1,200	19,000	0.78	14,760	17,750	製品ハ鹽漬後冷蔵庫内ニ二十日経過秤量	
二割五分鹽	1,200	19,000	0.81	15,360	18,450	十九日経過秤量	
計	2,400	38,000	0.80	28,800	36,600	十九日経過秤量	

小鱈ハ背開トシ鯉、内臓ヲ去リ鹽量二割五分ノ撒漬トシ小鱈ハ鯉、内臓ヲ除去セス其儘一割六分鹽トシテ撒漬漬冷蔵後樽詰荷造ス

荷造樽數ハ 薄塩鯖 九樽 薄塩小鱈 壹樽
薄塩小鱈 壹樽 合 計 拾壹樽

ニシテ之レヲ七月二十一日午前一時黒島村ヨリ馬車積トシテ發送シ全日午前八時穴水町ニ着シ直ニ汽船積トシテ矢田新驛ニ廻送シ全日午後四時全驛發貨車ニ鹽魚扱トシテ搭載シ二十三日名古屋ニ到着セリ

試賣狀況及成績

試驗品名古屋市ニ到着セン時ハ和歌山、三重地方ヨリ生鯖ノ輸入夥多ナリシ爲メ之レニ壓倒セラレ價額甚タシク低廉ナリシヲ以テ即賣ヲ見合セ其儘帝國冷蔵株式會社名古屋冷蔵庫ニ保管ヲ託シ置キ二ヶ月半ヲ經テ十月五日ニ至リ賣却シタルニ當時鹽鯖ノ相場ハ八錢内外ヲ往復シ居タルニモ拘ラス冷蔵鯖ハ品位優良ノ旨ヲ以テ鯖一尾平均手取金九錢六厘五毛ノ仕切ヲ得タリ此收支計算次ノ如シ

薄塩鯖收支計算

收入ノ部

一金五拾參圓九拾貳錢貳厘

内 譯

金五拾參圓參拾七錢

金五拾五錢貳厘

支出ノ部

一金五拾壹圓八拾八錢

内 譯

金貳拾貳圓八錢

金參圓六拾八錢五厘

金貳圓八拾錢

金五圓五拾九錢

金拾圓拾貳錢

金七圓六拾錢五厘

損 益

金五拾參圓九拾貳錢貳厘

金五拾壹圓八拾八錢

差引 金貳圓四錢貳厘

收入總額

冷蔵薄塩鯖五五二尾
賣却手取金一尾九錢六厘五毛割合

鯖五五二尾分臍膈代

支出總額

鯖五五二尾代一尾四錢割

食塩一八、二一〇匁代

製造人夫賃女七人一人四拾錢割

荷造費 樽九個一個五拾錢割
人夫賃壹圓 繩九錢

名古屋冷蔵庫保管料 一貫二匁二ヶ月半
運賃 自黒島村一樽八拾四錢五厘割
至名古屋市

運賃 自黒島村一樽八拾四錢五厘割

收入總額

收入總額

支出總額

利益總額

前記ノ如ク鯖ノ品位優等ニシテ特ニ高價ニ販賣スルヲ得タレモ數量甚タシク僅少ナリシ爲メ割合ニ製造人夫費、運賃其他ノ經費ヲ嵩ミタルノミナラズ本年ハ稀有ノ不漁ニシテ鯖ノ原料ハ例年ノ倍額ニ達シ一尾四錢ノ原料魚ヲ供用スルノ止ムナキニ至リシニモ拘ラズ尙多少ノ利益ヲ收ムルヲ得タルハ稍本試験ノ目的ヲ達セシモノト謂フヲ得可シ
既記ノ如ク鯖ノ數量寡少ナリシ爲メ小鯛、小鯉ヲモ試賣セシガ其ノ成績ハ優良ナルヲ得サリシ

第二 調味品製造試験

主任技手 志村彦藏

一、試験ノ趣旨

調味品製造試験ハ前年度ヨリノ繼續試験ニシテ前年度ニ於テ施行セシ「このしろ」粟漬製造試験及鯽蕪漬製造試験ノ内前者ハ試験ノ成績顯著ナリシヲ以テ民間ニ於テモ有望ナリト認メ之レガ製法ノ傳習ヲ希望スルモノアルヲ以テ七尾町ニ講習會ヲ開催シ之レガ獎勵ニ努メ後者ハ前年度ニ繼續シテ試験ヲ實施セルコト次ノ如シ

二、鯽蕪漬製造試験

本試験ハ前年度ノ成績ニ鑑ミ十一月月中旬ニ於テ製造ニ着手シ十二月中旬頃ヨリ東京ニ輸送シ年末、年始ノ好時期ニ試賣セシムル豫定ナリシガ昨秋ハ降雨夥多ニシテ氣候寒冷ナリシ爲メ蕪ノ不作甚タシク遂ニ時期ヲ逸シタルノ感アリシモ不得止十二月月中旬ニ至リ試験ニ着手シ蕪四百個丸形大根二百個(蕪ノ價額暴騰ノ爲不得止丸形大根ヲ混用セルモノトス)鯽八尾ヲ使用シ之レニ概其他必要ノ材料ヲ供用シ鯽蕪漬三千二百三十切ヲ製造シ二斗樽詰七個ト爲シ本年一月中旬ヨリ東京ニ於テ試賣セシメタリ

(1) 製造方法及荷造法

製造法ハ前年度施行ノ方法ト大同小異ナレモ蕪ハ非常ノ不作ニシテ甚タシク高價ナリシヲ以テ丸形大根ヲ混用シ又概其他ノ材料ヲ節約シテ製造經費ノ輕減ヲ計リ尙前年度ニ於テハ十片入曲物詰トシテ試賣セシガ液汁ノ漏洩スル小容器ニ詰メタルモノハ發黴等變質ヲ迅速ナランムル憂アリ且ツ荷造費、運賃等經濟上ノ不利不尠ヲ以テ本年度ニ於テハ二斗樽詰ト爲シ蕪漬ノ上層ヲ浸ス丈ケ漬汁ヲ殘存セシメ過剩ノ液ハ除去シ樽蓋ハ可成内容物ニ密着セシメ嚴封シテ市場ニ移送セリ

(2) 製造日誌

大正六年十二月 自十一日 蕪及大根調理並ニ漬漬
至十三日

品目	數量		重量		調理		後		用途
	個數	數量	重量	數量	切數	重量	數量		
蕪	4000	個	360	kg	1,720	切	32,400	kg	升
丸形大根	2000	個	41,500	kg	1,510	切	37,900	kg	
合計	6000	個	77,540	kg	3,230	切	70,300	kg	九,四一

十二月十七日鯽魚ノ調理並ニ漬漬

薄魚ニシテ生鯽ノ價格暴騰セシヲ以テ漬漬鯽ヲ購入シ三枚ニ卸シテ頭、骨ヲ除去シ卸肉ヲ立漬漬トス

品目	數量		重量		調理		後	
	尾數	數量	重量	數量	頭及骨	卸肉	重量	
丸漬鯽	8	尾	21,440	kg	4,640	kg	16,800	kg

十二月 自二十七日前ニ漬漬セル蕪及大根ハ蒸熱セシヲ以テ本漬ヲ行ヘリ
至二十九日

大正七年一月四日荷造用二斗樽七個ニ詰替ヘテ爲シ重壓ヲ加ヘ荷造蓋嵌ノ準備ヲナス

一月七日 荷造 一月八日 東京ニ向ケ出荷 一月十三日 東京着

(ハ) 試賣ノ方法

前年度ニ放ケル試賣成績ノ最モ良好ナリシ東京ニ全部ヲ輸送シ賣價ヲ指定シテ次ノ四商店ニ委託シ試賣ヲ爲セリ

- 東京市京橋區銀座二丁目 菊屋商店
- 全 神田區表神保町一番地 綾部清三郎
- 全 神田區鍛冶町二六番地 日本名物商行
- 全 牛込區矢來町八番地 安藤俊吉

(ニ) 收支計算

支 出 ノ 部

支 出 總 額

- 一金八拾八圓貳拾貳錢
 - 內 譯
 - 金拾六圓
 - 金六圓六拾錢
 - 金五拾壹錢五厘
 - 金貳拾四圓拾六錢
 - 金六圓八拾四錢
 - 金參圓參拾錢
 - 金七拾四錢
- 蕪四百個一個四錢割
 - 丸形大根二百個一個參錢參厘割
 - 鹽七升五合
 - 鹽鱈八尾二十一貫四百五十六匁平均一尾二貫六百八十二匁
 - 桃二斗八升五合一升貳拾四錢割
 - 清酒五升五合一升六拾錢割
 - 胡蘿蔔七十六本

(三三)

- 金九錢
- 金參圓四拾五錢
- 小計金六拾壹圓六拾九錢五厘
- 金五圓六拾錢
- 金七錢五厘
- 金壹圓貳拾五錢
- 金拾九圓六拾錢
- 小計金貳拾六圓五拾貳錢五厘
- 收 入 ノ 部
- 一金九拾五圓參拾錢四厘
- 內 譯
- 金六拾五圓五拾五錢
- 金拾四圓八拾錢
- 金壹圓貳拾錢
- 金九圓六拾九錢
- 金壹圓四拾錢
- 金壹圓拾六錢四厘
- 金壹圓五拾錢

收 入 總 額

- 抽子十六個一個五厘
- 人夫女十四人
- 三千二百三十切製造費大二千五百八切 中五百九十二切 小五百三十二切
- 樽七個(二斗樽)一個八拾錢割
- 繩一束七錢五厘割
- 荷造人夫女三人貳拾五錢割 女二人 五拾錢割
- 運賃自宇出津(客車) 至東京(一樽貳圓八拾錢)
- 鱈蕪賣却代金大二千八百八十五切 中五百九十二切 一切貳錢五厘ノ割
- 全 上
- 全 上
- 全見積代金見本其他ニ使用ノ分 大三百二十三切 一切三錢ノ割 小六十切 一切貳錢ノ割
- 全 上
- 全 上
- 鹽鱈八尾分ノ頭骨賣却代四貫六百四拾匁
- 鹽鱈屑肉及皮賣却代二貫五百匁

(三三)

損益	
金八拾八圓貳拾貳錢	支出總額
金九拾五圓參拾錢四厘	收入總額
差引 金七圓八錢四厘	純利益金額

(本) 結 論

今回ノ試験ハ蕪ノ凶作ニ因リ製造時期遅レタル爲メ本品販賣ノ好期節ナル年末年始ノ時機ヲ逸シタルニモ拘ラズ尙七圓餘ノ利益ヲ舉クルヲ得タルモノニシテ十一月中旬頃製造ニ着手シ十二月中旬ヨリ販賣センニハ相當利益アル價格ヲ以テ東京市中ノミニテモ多大ノ需用ヲ期待シ得可ク將來有望ナル商品ト爲スノ見込充分之レアルヲ認メタリ

三、「このしろ」粟漬製造指導

「このしろ」ハ七尾灣沿岸各地ニ多産スレハ鮮魚トシテノ需用ハ甚タ狭少ニシテ多クハ蒲鉾原料等ニ使用スレハ小形魚ハ殆ント用途ナク往々肥料トナスガ如キコトアルヲ以テ之レカ利用策トシテ粟漬製造試験ヲ前年度ニ於テ施行シ金澤ニ試賣セシニ其ノ成績良好ナリシヲ以テ鹿島郡水産組合ニ於テハ其ノ有望ナルヲ認メ之レカ製法ノ指導ヲ懇望スルニ至レルヲ以テ大正六年十一月廿日ヨリ五日間七尾町ニ粟漬製造講習會ヲ開催セシメ本場ヨリ講師ヲ派遣シテ實地指導ヲ爲シ獎勵ニ努力セシメ講習修了生拾四名ヲ出セリ

粟漬講習修了生住所氏名	
七尾町字作事町	杉野作太郎
同	能勢政次郎
同	春木安太郎
同	小栗榮次郎

同	安井覺太郎	同	伊久留卯太郎
同	字府中町	同	庵作太郎
同	三谷芳太郎	同	三浦作太郎
同	庵作二	同	北川由太郎
同	竹本乙松	同	字魚町
同	字魚町	同	別所才二
同	百浦喜太郎	同	

第三 支那輸出鹽鱈製造試験 主任技手 志村彦藏

一、試験ノ趣旨

本試験ハ大正元年度以來ノ繼續試験ニシテ元年度及二年度ニ於テハ相當好成績ヲ舉ケタルニモ不拘三年度以後ハ支那内地ノ動亂、日貨排斥又ハ歐洲戰亂ニ因リ船腹不足ノ影響等ヲ受ケ豫期ノ成績ヲ見ル能ハサリシモ是等特種ノ支障ニ遭遇スルニ非ラサレハ事業成立ノ見込アルモノト認メ本年度ニ於テハ荷造法等ニ改良ヲ加ヘ鱈ノ主産地ナル鹿島郡東島村字鱈目ニ於テ製造ヲ爲シ鹽鱈支那輸出ノ經濟得失ヲ更ニ確カメムトシテ試験ヲ實施セリ

二、製造法及荷造法

製造ノ方法ハ前々年度施行ノ方法ト同様有頭有骨背開鹽鱈ニ製造セリ
従前施行ノ荷造法ハ一梱包ノ正味重量百斤若シクハ百〇五斤ヲ莖包繩掛トセシカ年來試験ノ成績ニ依レハ莖包荷造リハ包裝莖ニ多量ノ水分ヲ汲收シテ目減ヲ多クシ且ツ輸送ノ途中抜荷サル、ノ憂尠ナカラサルヲ以テ之等ノ損失ヲ防カムカ爲メビール及刻煙草ノ明函ヲ利用シ、ビール函ハ一函ニ正味百斤乃至百〇三斤煙草函ハ百十斤乃至百十二斤入トシ繩掛荷造ト

爲セリ

三、製造日誌

鱈主産地ナル鹿島郡東島村字緩目ヲ製造地トシテ二月三日ヨリ塩藏ニ着手シ二月九日終了セリ
 二月十六日手返ヲ行ヒ三月八日及三月九日荷造
 製造總數壹千六百七十六尾此重量九百四十九貫三百五十五匁ニシテ製品五百六十九貫二百八十匁(三千五百五十八斤)ヲ得之
 レヲ、ビール函詰二十八個及煙草函詰六個ニ荷造シ尙三十五斤ノ端數ヲ殘セリ
 三月十二日緩目ヨリ和船便ニテ矢田新驛ニ送荷シ矢田新ヨリ鐵路神戸ニ送り前年同様神戸市兵庫宮前町北風半七ニ中繼キ
 輸出方ヲ依託セシニ船腹不足ニシテ積出容易ナラサリシ等ノ關係上中途ヨリ神戸市榮町通三丁目山口合名會社神戸支店ニ
 引繼キ全店ヲシテ輸出セシメ漸ク五月上旬ニ至リ上海ニ於テ大倉組上海支店ニ依託販賣セシメタリ
 製造數量内譯次ノ如シ

(三五)

月日	原料尾數	原料重量	調理後重量	單價	小計
二月三日	二五〇	一六二、三〇〇	一一二、〇〇〇	一七二、五	四三、一二五
二月四日	二五〇	一四九、二五〇	一〇四、七〇〇	一七二、五	四三、一二五
二月五日	二二五	一三四、〇〇〇	九六、五〇〇	一七〇、〇	三八、二五〇
二月六日	三一六	一四五、八〇〇	九五、五〇〇	一六一、〇	五〇、八七六
二月七日	三一五	一四六、七〇〇	九七、〇〇〇	一六一、〇	五〇、七一一
二月八日	一二五	七九、二〇〇	五三、四〇〇	一六〇、〇	二〇、〇〇〇
二月九日	一九五	一三二、一〇〇	九〇、三〇〇	一七七、〇	三四、五一五
合計	一、六七六	九四九、三三〇	六四九、四〇〇	平均	二八〇、六〇六

四、試賣成績

時局ノ影響ニヨリ船腹不足ニシテ輸送容易ナラサリシ等ノ關係上種々支障ヲ來タシ出荷後約二ヶ月ヲ經過シテ漸ク販賣ヲ
 爲スニ至レリ之レガ爲メ製品ハ變質ヲ來タシ百斤ニ付僅カニ一兩五匁(金參圓)ノ安値ヲ以テ處分スルノ止ムヲ得サルニ至
 リ試驗ノ目的ヲ達スルコト能ハサリシ

五、收支計算

収入ノ部	収入總額
一金百六拾圓壹錢貳厘	鹽鱈賣却代 二千六百二十八斤七五
内譯	鱈ノ子代 九十八貫三百匁(完全ノモノ五百七十一尾分)
金七拾八圓八拾六錢貳厘	鰓及内臟代 四石二斗三升
金五拾八圓九拾八錢	鹽存鹽鱈見積價格 三十五斤(十五尾)
金八圓參拾八錢	鹽交付金
金參圓	
金拾圓七拾九錢	
支出ノ部	支出總額
一金參百九拾八圓參拾參錢八厘	鱈 一千六百七十六尾九百四十九貫三百五十五匁
内譯	鱈一尾平均拾六錢七厘四毛割
金貳百八拾圓六拾錢六厘	製造人夫 男十四人一人七拾五錢割
金貳拾圓八拾五錢	製造人夫 女延三百四十五時間一時間三錢割

(三七)

金壹圓六拾八錢

金拾六圓貳拾貳錢八厘

金六拾圓貳拾四錢

金拾六圓參拾六錢八厘

金貳圓參拾六錢六厘

雜用人夫費女延五十六時間一時間三錢割

荷造費
荷造人夫男二人女四人貳圓七拾錢割
刺草草空兩六個一個參拾八錢割
ビール空兩二十八個一個參拾五錢五厘割
繩八束一束七錢五厘割
釘三百二十枚每枚二分貳拾錢割
荷札六十八枚一枚二分一厘割

運賃及
輸出諸掛
自ヨノ日 和船運賃六圓八拾錢
自矢田新 運賃貳拾壹圓八錢
自神戶 運賃貳拾壹圓八錢
自神戶 運賃貳拾壹圓八錢
自神戶 運賃貳拾壹圓八錢
自神戶 運賃貳拾壹圓八錢
自神戶 運賃貳拾壹圓八錢

輸入稅及
附加稅等
輸入稅及附加稅貳圓六拾貳錢六厘
輸入諸掛參圓七拾四錢貳厘

賣却
手續料
實上金額參拾九兩四三一
七拾六圓八拾六錢貳厘ノ三分

六、結 論

本年度試驗ノ經過ハ船腹不足ニシテ船積容易ナラサリシニ基因シ遂ニ試驗ノ目的ヲ達セサリシカ大正元年度以來本試驗實施ノ成績ヲ審サニ考查スルハ本品ハ支那人ノ嗜好ニ適シ上海方面ニ於ケル需要モ亦不尠ヲ以テ日貨排斥其他上海地方ノ市況ニ激變無ク且ツ輸送機關ノ順調ニ復スルニ至ラハ本事業ハ相當囑望ノ價值アルモノト認ム因テ本試驗初年度以來五ヶ年間ノ平均製造歩留及諸經費ノ割合等ヲ掲ケ將來本事業ノ企劃者ノ參考ニ資セムトス然レトモ現今ノ海運狀態ニアリテハ成功至難ナルヲ以テ本試驗ハ本年度限り一時中止ス可シ

大正元年度以來本年度迄五ヶ年間(大正五年度ヲ除ク)ニ涉リ實施シタル本試驗ニ供用セシ原料及製品、副產品等ノ總數ハ

生 鱈 重 量 一一、六〇九、一六〇

此 尾 數

調理後重量

鹽 鱈
荷造當時ノ重量
支那上海ニ於テ賣却當時ノ重量

鱈 ノ 子

總 及 臟 腑

鹽 鱈
荷造當時ノ重量
支那上海ニ於テ販賣當時ノ重量

鱈 ノ 子

總 及 內 臟

ナルヲ以テ今假リニ原料壹百貫匁(生鱈壹尾平均重量五百六十五匁トシテ壹百七十七尾)ヲ製造スルモノトセハ

食 鹽

製造人夫費

荷 造 費

運 賃

税金及手数料

二〇、五三三尾

八、三〇八、七一〇

六、一六五、四三〇

五、一五七、五六〇

八二九、四〇〇

約三九、三〇升

五三、一〇〇

四四、四〇〇

七、一四〇

約三、四升

鹽代金ハ購入價格ヨリ據專賣法ニ依ル
交付金額ヲ除ク可シ

以上ハ進包繩掛ケ荷造トス
箱詰トセハ約壹圓七拾錢ヲ要ス

本縣製造地ヨリ支那上海迄

關稅、全附加稅、問屋手数料等

本事業ノ經濟ハ起業ニ前キ立チ上海ニ於ケル市場ノ鹽鱈相場ヲ調査スルト同時ニ前記ノ歩留及諸經費額ヲ標準トシテ當時

ノ原料價格ヨリ副産物ノ賣價ヲ控除シ之レニ諸經費ヲ加算スル時ハ其得失ノ概要ヲ豫知スルヲ得可シ (四〇)

養殖部

第一 鹹水養殖試驗

主任技手 塚越 靜吉

一、試驗ノ趣旨

本試驗ハ七尾灣利用試驗ノ一部ニシテ從來天然ノ儘ニ放擲セラレタル灣澳入江ニ對シ水閘門等ノ人意的設備ヲ施シテ沂上セシ魚族ノ逃逸ヲ防止スルト同時ニ漁具漁法ノ改良ヲナシ且ツ年々鰻兒ノ放流等ニヨリ主トシテ半鹹水性魚族ノ粗放の養殖ヲ目的トシ試驗地ヲ鹿島郡西湊村所在赤浦灣入江ノ水面積二十八町七反三畝二十六歩ニ撰定シ大正三年度ヨリ之ヲ開始シ以テ本年度ニ及ベリ

二、試驗經過概要

大正三年度中ニ水閘門監視小屋其他捕獲具等ノ諸設備完成シタルヲ以テ四年三月中ニ極幼鰻苗二百五十七萬五千尾ヲ生産地大阪府ヨリ搬致シテ放流ヲナシ尙五年度ハ六月中鰻兒一尾一匁乃至二匁大ノモノ八十貫ヲ又本年度ハ六月中同大ノモノ五十貫ヲ何レモ生産地愛知縣下一色地方ヨリ購入シテ之ヲ放流セリ而シテ四年度中ニ於テハ鰻鰯黑鰯鰻鰯其他各種ノ半鹹水性魚族ノ漁獲ニヨリ千八百〇五貫十匁代金八百八拾九圓參拾參錢五厘ヲ又五年度ニ於テハ同千九百六十八貫百二十一匁代金壹千四百八拾四圓五拾七錢五厘ノ收入ヲ舉ケ稍好果ヲ得タルモ尙本年度ハ少クトモ漁獲高ヲ貳千圓ニ達セシムルノ目的ヲ以テ漁撈ニ關スル諸般設備ニ於テモ幾多改良ヲ加ヘタリト雖意外ニモ收穫ノ最盛時期タル九月ヨリ十月下旬ニ至ル

マデ約二箇月間ニ亘リ虎疫猖獗ヲ極メ之ガ豫防ノ爲本縣令ヲ以テ七尾灣内ノ漁業及海水ノ使用ヲ絕對禁止セラレタル結果本養殖場ノ魚類モ亦之ヲ採捕スルヲ得ザルノ悲運ニ遭遇シ遺憾ナガラ數字上ニ於テハ本年度處期ノ成果ヲ收メ能ハザリシト雖既往三箇年間ノ經過ニ徴シテ本事業ガ有望ナルモノナル事ハ一般當業者ニ周知セシメ得タリ今年度ニ於ケル全漁獲高ヲ示セハ左表ノ如シ

自大正六年四月
至大正七年三月 鹹水養殖場漁獲高

一金壹千拾九圓四錢六厘

内 譯

鰻	百二十四貫六百六十匁代
鰻	百十八貫九百五十匁代
鰻	四百二十七貫三百匁代
鰻	七十二貫百匁代
鰻	三十一貫八百匁代
黑鯛	三十三貫代
雜魚	二百一貫三百八十七匁代
金參百五拾七圓參拾四錢	
金四拾七圓六拾貳錢	
金四百貳拾七圓參拾錢	
金參拾八圓貳錢	
金拾九圓拾錢	
金參拾參圓	
金九拾六圓六拾六錢六厘	

第二 岩海苔蕃殖試驗

主任技手 塚越 靜吉

一、試驗ノ趣旨

縣下能登外浦沿岸ニハ到ル處岩海苔ノ生産アリト雖其ノ著生スベキ岩盤ハ概テ面粗糙ニシテ大小ノ凹凸多ク波浪ノ流過均一ヲ缺クヲ以テ甚シク其ノ著生並ニ成長ヲ妨ゲラル、ノミナラズ岩質一般ニ脆弱ナルニヨリ摘採ニ際シ常ニ多數ノ岩石ノ小破片ヲ混ジ從テ製品トシテノ價值ヲ失墜スルコト夥シキヲ以テ本場ハ此自然ノ缺點ヲ補フニ附着岩面ニ對シ混凝土塗抹養殖法ヲ以テシ大正五年度ニ於テハ能登外浦羽咋郡福浦村地先ノ岩面三十坪ヲ整理シテ試驗地トナシ好成績ヲ得タルヲ以テ本年度ハ尙ホ之ヲ繼續シテ鳳至郡輪島崎及珠洲郡狼煙ノ二箇所ニ於テ本試驗ヲ實施シタリ

二、試驗ノ場所及面積

鳳至郡輪島町字輪島崎俗稱へたノ龜岩十四坪
珠洲郡西海村字狼煙俗稱海苔島二十坪

前者ハ輪島崎ノ最先端距岸約百間ノ沖合ニアリテ復雜ナル凹凸ヲナシ岩質稍硬ク一体ニ沖ニ向ツテ緩傾斜ヲナシ從來海苔ヲ産スル處ニシテ試驗場所ハ水面上二尺乃至四尺ノ處トス後者ハ綠剛崎ノ先端ニ位シ距岸約二百間軟岩ニシテ一体ニ低ク地方ニ向ツテ殆ンド扁平ナル緩傾斜ヲナシ從來少量ノ海苔ヲ産ス而シテ試驗場所ハ水面上約一尺乃至三尺ノ處トス

三、造築工事ヲナシタル期日

輪島崎ニ於テハ大正六年自八月二十九日至全月三十一日三日間
狼煙ニ於テハ大正六年自八月二十六日至全月二十八日三日間
但シ造築方法ハ前年度全様トス

四、造築工事費

輪島崎ノ分總金額金貳拾八圓八拾四錢

内 譯

種目	數量	單價	小計	附記	
七斗入セメント運賃	二 全	一樽ニ付 八、二〇〇	一六、四〇〇	金澤縣ヨリ輪島崎迄	
人夫費	三 人	全 一、八九〇	三、七八〇		岩面整理手傳
石工費	三 人	一人一日 五〇〇	一、五〇〇		
船借入料	二 艘	一艘一日 五〇〇	六、一六〇		材料運搬用
計			二八、八四〇		

但シ一坪當工事費ハ金貳圓六錢ニ當ル

狼煙ノ分總金額金四拾貳圓拾參錢

内 譯

種目	數量	單價	小計	附記	
七斗入セメント運賃	三 全	一樽ニ付 八、二〇〇	二四、六〇〇	金澤縣ヨリ狼煙迄	
人夫費	一 七 人	全 一、九一〇	五、七三〇		岩面整理及混凝土置モルタル塗手傳
左官費	三 人	一人一日 五〇〇	八、五〇〇		
船借入料	三 艘	一艘一日 六〇〇	一、八〇〇		
計			四二、一三〇		

但シ一坪當工事費ハ金貳圓拾錢七厘ニ該當ス

五、試驗成績

本年ハ秋季ヨリ初冬ニ至ル胞子ノ附着時期ニ於テ試驗地ヲ浸潤スル程度ノ波浪回数多カリシヲ以テ從テ海苔胞子ノ附着發

生スルモノ夥シク殆ンド全面海苔ヲ以テ覆ワル、ノ盛況ナリシガ摘採期タル十二月ヨリ二月ニ亘リ連日ノ降雪ニ加フルニ近年稀有ノ荒天連續シ引續キ激浪甚シク到底試驗地へ近寄ルコトヲ得ズ折角附着成長セシ海苔モ大部分脱落流失ノ已ムナキニ至レリ尙危險ヲ冒シ辛フジテ摘採シ得タル回数輪島崎ニ於テ二回狼煙ニ於テ四回ニシテ其ノ摘採數量左表ノ如シ

輪島崎ノ分

摘採月日	數量	單價	小計	附記
一月十二日	七貫匁	一貫匁	九、二四〇	
二月六日	四貫三百匁	全	五、〇四〇	
合計	十一貫二百匁		一四、二八〇	全部生草ノマヽ販賣ス

一坪平均生草八百匁價格金壹圓貳錢ノ收入

狼煙ノ分

摘採月日	數量	單價	小計	附記
一月十二日	四貫匁	一貫匁	五、二〇〇	
全 二十四日	二貫七百匁	全	三、五一〇	
全 二十七日	一貫八百匁	全	二、三四〇	
二月二日	三貫匁	全	三、九〇〇	
合計	十一貫五百匁		一四、九五〇	全部生草ノマヽ販賣ス

一坪平均生草五百七十五匁價格金七拾四錢七厘ノ收入

右成績ニ徴スルモ本年度ハ不可抗力ノ結果特ニ豫定ノ摘採數量ヲ得ル能ハザリシト雖既往ノ平均年柄ニ鑑ミレバ今後少クトモ一年十回ノ摘採ヲナシ坪當總量二貫匁ヲ獲ルハ極メテ容易ナルコト、信ズルノミナラズ「コンクリート」面ハ永久のニ

シテ然モ附着ノ確實ナルコト、普通地産ニ比シ摘採時間ノ短縮セラル、コト品質ノ柔軟ニシテ且ツ在來品ノ最大缺點タル砂及介殼片等ノ挾雜物ヲ含マズ從テ在來品ニ比シ價格約三割ヲ向上シ得ルコト等一般當業者ニ周知セラレシヲ以テ七年度ニ於テハ能登沿岸各郡共之ガ普及ヲ迅速ナラシムルノ目的ヲ以テ夫々多數漁業組合ニ對シ應分ノ郡費補助ヲ與ヘテ本事業ノ施設ニ當ラシムルニ至レリ

第三 鮎人工孵化蕃殖試驗

主任技手 塚越 靜吉

一、試驗ノ趣旨及五年度成績

本試驗ハ大正五年度ノ創始ニ係リ既ニ全年度縣下手取川下流ニ於テ之ヲ實施シ鮎卵四百六十一万五千粒ヲ採卵シテ鮎兒三百一十一万六千九百尾ヲ孵化放流シタリシガ本年度モ又同一箇所ニ於テ之ヲ繼續施行シタリ
五年度ハ大正六年一月上旬ヨリ二月下旬ニ至ル冬季間ニ於テハ過去十三年來稀有ノ大降雪アリテ四月以後ニ至ルモ尙餘寒甚ダシク之ガ爲メ手取川水源地タル白山々脈ニ於ケル積雪ノ融解期間頗ル長カリシ結果本川ハ絶エズ雪解水ノ大影響ヲ受ケ例年ヨリモ水量ハ常ニ二尺乃至三尺ノ増加ヲ見タルノミナラズ從テ河水ノ溫度ハ例年ニ比シ常ニ低温ヲ持續シテ子鮎ノ湖河期節頗ル遅レ例年ナレバ四月ヨリ五月中ニ盛ニ折上スルモ本年度ハ五月ヨリ六月上旬中ニ折上シタルノ状態ニシテ著シク其成長ヲ妨ケラレ例年ノ魚形ヨリモ終始概シテ小形ナリシト雖湖河ノ數ハ例年ニ比シ頗ル豐饒ナリシヲ以テ一般漁民ハ全ク人工孵化放流ノ結果ニ起因スルモノト異口同音ニ認唱スルニ至レリ而シテ本年ハ前記ノ如ク水温常ニ前年ニ比シ約二度ノ低温ヲ示シタルト七月以降引續キ數回ノ大出水アリシ爲河床ニ大變化ヲ來シ從テ充分ノ餌料ヲ攝取スル能ハザリシヲ以テ産卵期ニ於テ約半箇月ノ遅延ヲ來シタルノミナラズ九月四五兩日並ニ九月三十日ヨリ十月二日ニ亘ル稀有ノ暴風雨

ニ因ル大出水ハ河口附近ニ於テ實ニ一丈二尺ニ増加シ之ガ爲メ湖上鮎ノ大部分ハ上流ニ止リ得ズ遠ク海中ニ押流サレシ事
實ハ當時近海漁者ノ曳網又ハ投網等ニテ此ノ種疲勞セル鮎ヲ續々漁獲セラレシニヨリテモ推知シ得ラル、ナリ

二、孵化場ノ位置

能美郡湊村地先手取川下流右岸ニシテ河口ヨリ約十町上流俗稱三百河原堤外側(本流ト反對側)ヲ流ル、平均巾一間水深一
尺底質砂礫ニシテ較々急流ヲナシ手取本流ニ合スル湧水流ヲ利用シ其ノ手取本流トノ合流點ヲ距ル約二町許リ上流ニ孵化
場ヲ設置ス該湧水ハ孵化場所在地ヲ距ル東方約十町ノ水田中數ヶ所ヨリ湧出スルモノガ附近水田ヲ灌漑シ合シテ一ノ河流
ヲ形成シ茲ニ來ルモノニシテ卵ノ孵化期間タル秋季ニ於テハ勿論灌漑ノ必要ナキヲ以テ直接孵化用水トシテ引用シ得ラル
水質極メテ良好ニシテ水温ノ急變ナク降雨時一時汚濁スルコトアルモ雨後直チニ清澈ニ復シ且ツ水位ノ増減僅少ナリ

三、採卵期間

大正六年十月九日ヨリ全月二十四日マデノ内九日間

四、親魚

手取本流縣禁漁場前後ニテ晝間鮎込網及蚊釣ヲ用ヒテ捕獲セシモノヲ孵化場ニ運ビテ活魚槽中ニ雌雄ヲ分チテ一時蓄エ數
十尾ニ達スル毎ニ直チニ採卵ニ着手シタリ尙本年ハ秋季數次ノ大出水ニ依ル天然餌料ノ缺乏ト寒冷ナル雪解水ノ影響ヲ受
ケ成長極メテ惡ク從テ親魚一般ニ小形ナリシノミナラズ豫定數量ヲ捕獲シ得ザリシハ遺憾トスル處ナリ、今採卵ニ使用シ
タル親魚ノ大サヲ表示スレバ左ノ如シ

使用月日	雌			魚			雄			備考
	大	小	平均	大	小	平均	大	小	平均	
十月九日	七、三	五、三	六、三	七、〇	五、〇	六、〇	七、〇	五、〇	六、〇	六十八尾平均
十月十日	六、一	五、〇	五、五	七、一	五、一	六、一	七、一	五、一	六、一	三十九尾平均
十月十一日	七、〇	五、一	五、八	七、七	五、七	六、七	七、七	五、七	六、七	四十四尾平均
十月十二日	六、三	五、一	五、五	六、九	五、九	六、九	六、九	五、九	六、九	十九尾平均
十月十四日	七、一	五、三	五、三	七、二	五、二	六、二	七、二	五、二	六、二	四十一尾平均
十月十五日	六、〇	五、三	五、五	七、八	五、八	六、八	七、八	五、八	六、八	二十六尾平均
十月二十二日	六、六	五、〇	五、五	七、三	五、三	六、三	七、三	五、三	六、三	一尾平均
十月二十三日	七、四	五、七	六、六	八、〇	六、二	七、一	八、〇	六、二	七、一	一尾平均
平均	六、七	五、二	五、九	七、八	五、六	六、六	七、八	五、六	六、六	一尾ノ平均數ハ平均八千粒ナリ

五、採卵設備

採卵ハ全部孵化槽ヲ浮ベタル場所ノ下流附近ニ水流ヲ跨キテ張詰メタル巾一間ノ仮橋上ニテ從事ス採卵場ノ上空ハ「テン
ト」張トシテ雨露ヲ防グ装置ヲナシ尙採卵場ト接シテ間口一間半奥行二間ノ簡易ナル藁葺製ノ監視小屋ヲ造リテ監視人夫
ヲ常任セシメ檢卵採卵氣象觀測其他ニ便セシムルト同時ニ一部ヲ物置ニ利用シタリ採卵並孵化用器具ハ全部前年度ト同様
ナリ採卵方法又前年ト同シ

六、採卵數

本年度ノ採卵總數ハ僅ニ百二万粒ニシテ使用セシ親魚ハ雌魚百三十一尾雄魚百九十二尾合計三百二十三尾ニ過ギズ而シテ
雌魚一尾ノ平均採卵數ハ八千粒雌魚一尾ニ對シ雄魚一、五尾ノ割合ニ使用シタリ即チ本年ハ一般ニ親魚昨年ニ比シ小形

ナリシト産卵盛期ニ當リ屢々出水ニ遭遇シ之ガ減水ヲ待テ採捕ニ從事スル頃ニハ既ニ卵ノ大部分ヲ放出シ居タル結果斯ク
 孕卵數ニ減少ヲ見タルモノナリ今採卵數ト親魚トノ關係ヲ表示スレバ左ノ如シ

(四八)

月日	採卵數	親魚尾數		合計	平均採出數	雌魚一尾ニ對スル雄魚ノ割合	備考
		雌魚	雄魚				
十月九日	二七五,〇〇〇	二二五	三三〇	五五五	一,一九〇〇	一,一〇〇	未熟卵ト放出後ノモノ多シ
全十	一,二五〇,〇〇〇	一五〇	二二〇	三七〇	八,三〇〇	一,一〇〇	
全十一	一五〇,〇〇〇	二〇	二四	四四	七,五〇〇	一,一〇〇	
全十二	七五,〇〇〇	一〇	一四	二四	一〇,七〇〇	一,一〇〇	
全十三	一五〇,〇〇〇	一六	二二	三八	九,三〇〇	一,一〇〇	
全十四	七五,〇〇〇	一三	一七	三〇	五,七〇〇	一,一〇〇	
全十五	一五〇,〇〇〇	二八	三三	六一	三,五〇〇	一,一〇〇	
全十六	一〇〇,〇〇〇	一〇	一三	二三	八,三〇〇	一,一〇〇	
全十七	五〇,〇〇〇	六	八	一四	六,六〇〇	一,一〇〇	
全十八	一〇〇,〇〇〇	一〇	一三	二三	八,三〇〇	一,一〇〇	
全十九	二〇,〇〇〇	三	四	七	一,七〇〇	一,一〇〇	
全二十	一〇,〇〇〇	一	一	二	一,七〇〇	一,一〇〇	
全二十一	二〇,〇〇〇	三	四	七	一,七〇〇	一,一〇〇	
全二十二	一〇,〇〇〇	一	一	二	一,七〇〇	一,一〇〇	
計	一,〇二〇,〇〇〇	一三一	一九二	三二三	平均 八,〇〇〇	平均 一,一〇〇	

七、孵化經過並放流成績

孵化用水ハ水源ニ近キ湧水ナルヲ以テ温度ノ變化少ク孵化期間ヲ通ジテ最高十九度五分最低七度平均十四度八分ヲ示シタ
 リト雖モ一日中ノ平均差ハ五分乃至四度ヲ示シタルニ過ギズ且ツ手取本流トハ常ニ一度五分乃至二度ノ高温ヲ保チ幾分解
 化ヲ迅速ナラシメタルノミナラズ水質全良ナリシヲ以テ平均八割五分二厘ノ孵化率ヲ示シ八十八萬六千五百五十尾ヲ放流シ
 タリ左ニ孵化經過表、放流成績表並氣象觀測表等ヲ掲ゲテ參考ニ質セントス

孵化經過表

採卵月日	發		了	日數	解		了	日數	備考
	開	終			始	終			
十月九日	十月十三日	十月十六日	十月十六日	四日	十月廿二日	十月二十四日	三日	同	採卵ヨリ所要日數
全十	全十四日	全十七日	全十七日	四日	全廿三日	全廿七日	五日	同	同
全十一	全十五日	全十九日	全十九日	五日	全廿五日	全廿九日	五日	同	同
全十二	全十六日	全二十日	全二十日	四日	全廿六日	全三十日	四日	同	同
全十三	全十七日	全廿一日	全廿一日	五日	全廿七日	全三十一日	五日	同	同
全十四	全十八日	全廿二日	全廿二日	四日	全廿八日	全十一月九日	三日	同	同
全十五	全十九日	全廿三日	全廿三日	五日	全廿九日	全十二月九日	五日	同	同
全十六	全二十日	全廿四日	全廿四日	四日	全三十日	全十一月九日	三日	同	同
全十七	全廿一日	全廿五日	全廿五日	四日	全三十一日	全十一月九日	三日	同	同
全十八	全廿二日	全廿六日	全廿六日	四日	全十二月九日	全十一月九日	三日	同	同
全十九	全廿三日	全廿七日	全廿七日	五日	全十二月九日	全十一月九日	三日	同	同
全二十	全廿四日	全廿八日	全廿八日	四日	全十二月九日	全十一月九日	三日	同	同
全二十一	全廿五日	全廿九日	全廿九日	五日	全十二月九日	全十一月九日	三日	同	同
全二十二	全廿六日	全三十日	全三十日	四日	全十二月九日	全十一月九日	三日	同	同
全二十三	全廿七日	全三十一日	全三十一日	五日	全十二月九日	全十一月九日	三日	同	同
全二十四	全廿八日	全十二月九日	全十二月九日	四日	全十二月九日	全十一月九日	三日	同	同
計	全二十九日	十一月一日	十一月一日	同	全七	全十一日	同	同	同

孵化成績表

採卵月日	採卵數	死		合計	孵化率	放流尾數	備考
		發眼前	發眼後				
十月九日	二七五,〇〇〇	〇割五分	二	〇割七分	二五五,七五〇	未熟卵多カリキ	
全十	一,二五〇,〇〇〇	〇割五分	二	〇割七分	一,〇〇〇,〇〇〇	同	
全十一	一五〇,〇〇〇	〇割八分	二	〇割五分	一三三,〇〇〇	同	
全十二	七五,〇〇〇	〇割八分	二	〇割五分	六三,七五〇	同	
全十三	一五〇,〇〇〇	〇割八分	三	〇割五分	一三三,五〇〇	同	
全十四	七五,〇〇〇	〇割八分	三	〇割五分	六二,二五〇	同	
全十五	一五〇,〇〇〇	〇割八分	五	〇割七分	一三三,〇〇〇	未熟卵多カリキ	
全十六	一〇〇,〇〇〇	〇割八分	五	〇割七分	七七,〇〇〇	未熟卵多カリキ	
全十七	五〇,〇〇〇	〇割八分	五	〇割七分	四一,五〇〇	未熟卵多カリキ	
全十八	一〇〇,〇〇〇	〇割八分	五	〇割七分	八八,一五〇	未熟卵多カリキ	
全十九	二〇,〇〇〇	〇割八分	一	〇割七分	一七,四〇〇	未熟卵多カリキ	
全二十	一〇,〇〇〇	〇割八分	一	〇割七分	八,一五〇	未熟卵多カリキ	
全二十一	二〇,〇〇〇	〇割八分	一	〇割七分	一七,四〇〇	未熟卵多カリキ	
全二十二	一〇,〇〇〇	〇割八分	一	〇割七分	八,一五〇	未熟卵多カリキ	
全二十三	一〇,〇〇〇	〇割八分	一	〇割七分	八,一五〇	未熟卵多カリキ	
全二十四	二〇,〇〇〇	〇割八分	一	〇割七分	一七,四〇〇	未熟卵多カリキ	
計	一,〇二〇,〇〇〇	一割〇分	一	一割四分七分	八八六,一五〇	未熟卵多カリキ	

(四九)

氣象觀測表

(一日三回前六時後二時後十時)

(140)

月	日	時	天	候	風	向	風	力	氣	溫	水	色	水	深	備	考
十月	九日	後二時	晴	晴	北	北	和	和	二〇・〇	一八・五	清	濁	平	水		
	八日	後六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・五	一八・〇	清	濁	平	水		
	八日	前六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・五	一八・〇	清	濁	平	水		
	七日	後六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・五	一八・〇	清	濁	平	水		
	七日	前六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・五	一八・〇	清	濁	平	水		
	六日	後六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・五	一八・〇	清	濁	平	水		
	六日	前六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・五	一八・〇	清	濁	平	水		
	五日	後六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・五	一八・〇	清	濁	平	水		
	五日	前六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・五	一八・〇	清	濁	平	水		
	四日	後六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・五	一八・〇	清	濁	平	水		
	四日	前六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・五	一八・〇	清	濁	平	水		
	三日	後六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・五	一八・〇	清	濁	平	水		
	三日	前六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・五	一八・〇	清	濁	平	水		
	二日	後六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・五	一八・〇	清	濁	平	水		
	二日	前六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・五	一八・〇	清	濁	平	水		
	一日	後六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・五	一八・〇	清	濁	平	水		
	一日	前六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・五	一八・〇	清	濁	平	水		

月	日	時	天	候	風	向	風	力	氣	溫	水	色	水	深	備	考
十月	九日	後二時	晴	晴	北	北	和	和	一八・四	一七・〇	濁	濁	一尺	增	本川水溫	一七・五
	八日	後六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・〇	一六・五	濁	濁	三寸	增	本川水溫	一五・九
	八日	前六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・〇	一六・五	濁	濁	三寸	增	本川水溫	一五・八
	七日	後六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・〇	一六・五	濁	濁	三寸	增	本川水溫	一五・九
	七日	前六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・〇	一六・五	濁	濁	三寸	增	本川水溫	一五・八
	六日	後六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・〇	一六・五	濁	濁	三寸	增	本川水溫	一五・九
	六日	前六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・〇	一六・五	濁	濁	三寸	增	本川水溫	一五・八
	五日	後六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・〇	一六・五	濁	濁	三寸	增	本川水溫	一五・九
	五日	前六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・〇	一六・五	濁	濁	三寸	增	本川水溫	一五・八
	四日	後六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・〇	一六・五	濁	濁	三寸	增	本川水溫	一五・九
	四日	前六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・〇	一六・五	濁	濁	三寸	增	本川水溫	一五・八
	三日	後六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・〇	一六・五	濁	濁	三寸	增	本川水溫	一五・九
	三日	前六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・〇	一六・五	濁	濁	三寸	增	本川水溫	一五・八
	二日	後六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・〇	一六・五	濁	濁	三寸	增	本川水溫	一五・九
	二日	前六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・〇	一六・五	濁	濁	三寸	增	本川水溫	一五・八
	一日	後六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・〇	一六・五	濁	濁	三寸	增	本川水溫	一五・九
	一日	前六時	晴	晴	北	北	和	和	一七・〇	一六・五	濁	濁	三寸	增	本川水溫	一五・八

(141)

手取川站附近圖



月	日	時	天	候	風	向	風	力	氣	溫	水	色	水	深	備	考
十月	二十七日	前六時	晴	晴	北	北	和	一	一三、三	一四、五	清	平水	全水	本川水溫 一六、五		
十月	二十八日	前六時	雨	雨	北	北	和	一	一三、八	一五、〇	清	全水	全水	本川水溫 一五、〇		
十月	二十九日	前六時	雨	雨	南	南	疾	一	一五、五	一六、五	濁	全水	全水	本川水溫 一五、〇		
十月	三十日	前六時	雨	雨	南	南	強	一	一六、三	一七、〇	濁	全水	全水	本川水溫 一五、〇		
十月	三十一日	前六時	雨	雨	南	南	強	一	一四、二	一五、二	濁	全水	全水	本川水溫 一五、〇		
十月	十一日	前六時	雨	雨	南	南	疾	一	一三、〇	一四、〇	濁	全水	全水	本川水溫 一三、五		
十月	十二日	前六時	雨	雨	南	南	疾	一	一二、五	一三、〇	濁	全水	全水	本川水溫 一三、五		
十月	十三日	前六時	雨	雨	南	南	疾	一	一一、〇	一二、〇	濁	全水	全水	本川水溫 一三、五		
十月	十四日	前六時	晴	晴	西	西	和	一	一〇、二	一一、〇	清	全水	全水	本川水溫 一三、六		
十月	十五日	前六時	晴	晴	西	西	和	一	九、八	一〇、五	清	全水	全水	本川水溫 一三、六		
十月	十六日	前六時	晴	晴	北	北	和	一	八、五	九、五	清	全水	全水	本川水溫 一三、六		
十月	十七日	前六時	晴	晴	北	北	和	一	七、八	八、五	清	全水	全水	本川水溫 一三、六		
十月	十八日	前六時	晴	晴	北	北	和	一	七、二	八、〇	清	全水	全水	本川水溫 一三、六		
十月	十九日	前六時	晴	晴	北	北	和	一	六、五	七、五	清	全水	全水	本川水溫 一三、六		
十月	二十日	前六時	晴	晴	北	北	和	一	五、八	六、五	清	全水	全水	本川水溫 一三、六		
十月	二十一日	前六時	晴	晴	北	北	和	一	五、五	六、五	清	全水	全水	本川水溫 一三、六		
十月	二十二日	前六時	晴	晴	北	北	和	一	四、五	五、五	清	全水	全水	本川水溫 一三、六		
十月	二十三日	前六時	晴	晴	北	北	和	一	四、〇	五、〇	清	全水	全水	本川水溫 一三、六		
十月	二十四日	前六時	晴	晴	北	北	和	一	三、五	四、五	清	全水	全水	本川水溫 一三、六		
十月	二十五日	前六時	晴	晴	北	北	和	一	三、〇	四、〇	清	全水	全水	本川水溫 一三、六		
十月	二十六日	前六時	晴	晴	北	北	和	一	二、五	三、五	清	全水	全水	本川水溫 一三、六		
十月	二十七日	前六時	晴	晴	北	北	和	一	二、〇	三、〇	清	全水	全水	本川水溫 一三、六		
十月	二十八日	前六時	晴	晴	北	北	和	一	一、五	二、五	清	全水	全水	本川水溫 一三、六		
十月	二十九日	前六時	晴	晴	北	北	和	一	一、〇	二、〇	清	全水	全水	本川水溫 一三、六		
十月	三十日	前六時	晴	晴	北	北	和	一	〇、五	一、五	清	全水	全水	本川水溫 一三、六		
十月	三十一日	前六時	晴	晴	北	北	和	一	〇、〇	一、〇	清	全水	全水	本川水溫 一三、六		

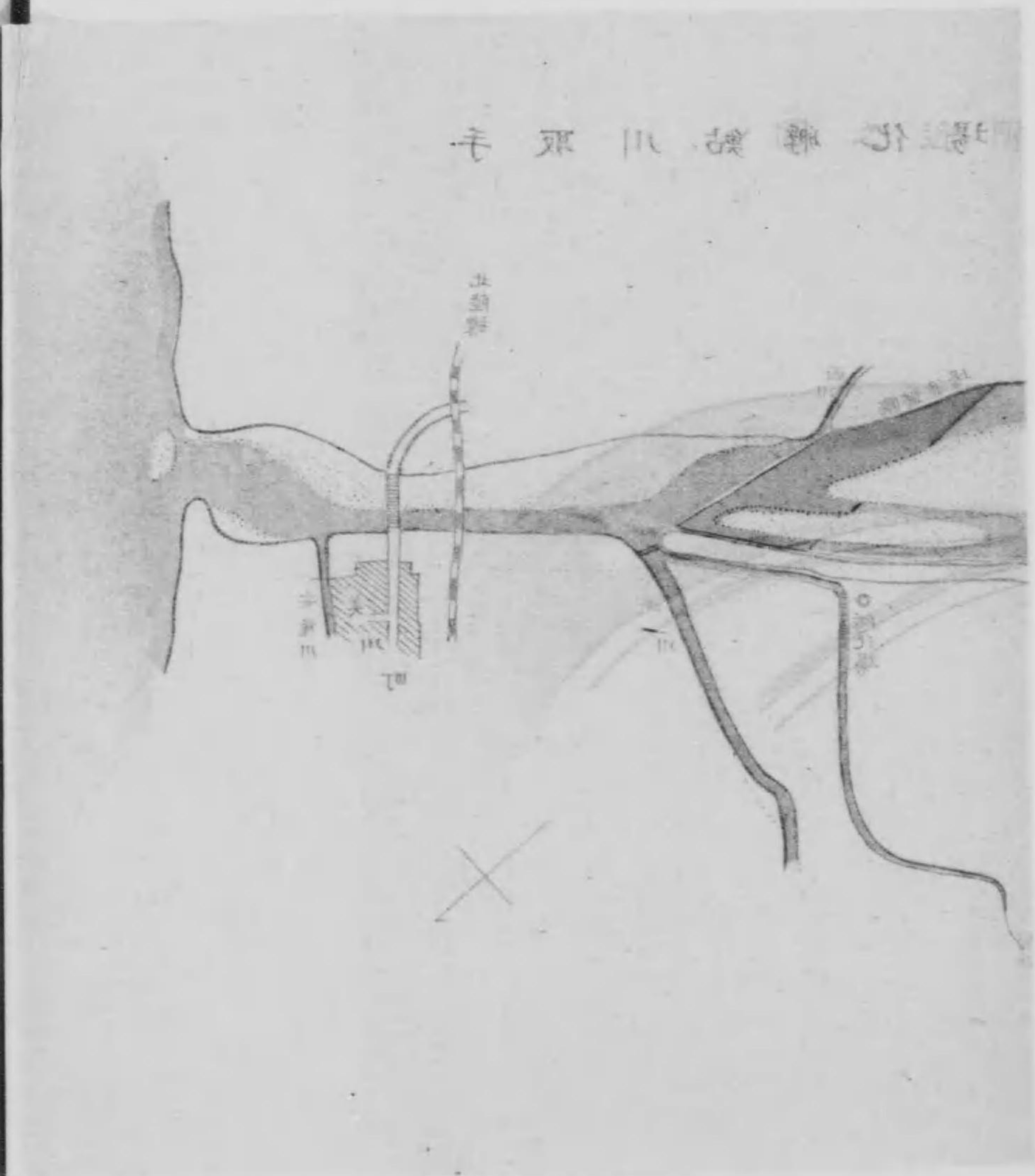
第四 ひがいの移殖試験

主任技手

塚越 静吉

(5111)

平均	計	全	十	全	全	十	全	全	九	全	全	八	全	全	七	全	全	六	全	全	五	全
均	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
		後二時	前六時	後六時	後六時	前六時	後六時	後六時	後六時	後六時	後六時	後六時	後六時	後六時	後六時	後六時	後六時	後六時	後六時	後六時	後六時	後六時
		晴	曇	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
		三	二	四	一	九	〇															
		南	西	南	南	南	南	北	北	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	西	西	西
		南				東	西	!		西	西	西	西	西	西	西	西	西	西	西	西	西
		烈	烈	疾	疾	疾	和	疾	烈	強	靜	和	強	烈	烈	烈	烈	疾	烈	疾	疾	疾
一四、四弱	一四、八強	一〇、八	一二、二	一二、五	一二、五	一三、五	一三、五	一三、五	一三、五	一三、五	一三、五	一三、五	一三、五	一三、五	一三、五	一三、五	一三、五	一三、五	一三、五	一三、五	一三、五	一三、五
		九、二	一〇、一	一一、〇	一一、三	一一、三	一一、三	一一、三	一一、三	一一、三	一一、三	一一、三	一一、三	一一、三	一一、三	一一、三	一一、三	一一、三	一一、三	一一、三	一一、三	一一、三
		清	清	清	清	清	清	清	清	清	清	清	清	清	清	清	清	清	清	清	清	清
		濁	濁	濁	濁	濁	濁	濁	濁	濁	濁	濁	濁	濁	濁	濁	濁	濁	濁	濁	濁	濁
		全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
		水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水
		本川三尺増	本川水溫	本川水溫	本川水溫	本川水溫	本川水溫	本川水溫	本川水溫	本川水溫	本川水溫	本川水溫	本川水溫	本川水溫	本川水溫	本川水溫	本川水溫	本川水溫	本川水溫	本川水溫	本川水溫	本川水溫
		水溫 九、二	一二、八	九、三	一二、〇	九、八	一二、〇	九、八	一二、〇	九、八	一二、〇	九、八	一二、〇	九、八	一二、〇	九、八	一二、〇	九、八	一二、〇	九、八	一二、〇	九、八



一、試験ノ趣旨

本試験ハ縣下淡水界ニ屬スル湖沼ノ利用ヲ目的トシテ前年度ヨリ繼續シ己ニ六年ニ、三兩月中三回ニ親鯿二千七十二尾ヲ主産地滋賀縣琵琶湖ヨリ搬致シテ縣下木場沼ヘ六百八十二尾、柴山沼ヘ千三百九十尾ヲ放流セシガ尙引續キ本年度大正七年三月中旬二千七十八尾ヲ前年度同様兩沼ヘ移殖放流シタリ

二、五年度移殖後ノ狀況

六年度中大ニ増殖シテ七八月中既ニ体長五分乃至一寸位ノ稚魚續々兩沼ニ於テ目撃セラル、ニ至リ殊ニ木場沼ノ如キ最モ蕃殖ヲ逞シウシ十二月十六日ヨリ全月二十七迄僅々十二日間ニ体長二寸五分乃至三寸ノモノ約三千尾ヲ投網及四ツ手網ニテ漁獲ス其後十二月二十七日以後七年二月下旬ニ至ル稀有ノ大降積雪ニ依リ沼全面ヲ閉鎖セラレ全ク漁獲不能ニ終リシガ三月ニ入り融雪後木場沼ニ於テハ一日平均三百尾乃至四百尾ノ漁獲アリ即チ六年度木場沼ノ漁獲高尾數二万五千尾價格五百圓ニ達シタリ尙柴山沼ニ於テモ三月以降相當漁獲アリシモ沼面積ニ比シ放流尾數ノ少ナカリシ爲メ蕃殖ノ効果ヲ周知セシメ難カリシト同沼ノ漁民ガ鯿ニ對スル眞價ヲ知悉セズ偶々漁獲アルモ雜魚ト混ジテ外賣等ノ廉賣ヲナスモノヲモ認メラレタル程ナルヲ以テ從テ木場沼ニ於ケル如ク今後活魚槽ノ設備ヲ完ニシ漁具漁法ノ改良ト共ニ相當販路ノ擴張ヲナサバ益々成績ノ顯著ヲ期スベシト信ゼラル

三、六年度移殖成績

前年度同様親魚ヲ滋賀縣琵琶湖ニ仰ギ同湖中神崎郡伊庭村伊庭内湖産ニシテ根摺網及鈎等ニテ漁獲セシ体長三寸五分乃至四寸九分体重三々七分乃至九々八分ノモノ重量十貫百四十々尾數二千七十八尾ヲ購入シ滋賀縣水産試驗場内蓄養池内ニテ一週間乃至三週間蓄養セシモノヲ自動送氣式運搬器五個ニ收容シ左記日割ヲ以テ三回ニ本縣ヘ輸送シ夫々放流ヲ了シタリ

放流月日	放流場所	運搬尾數	同上重量	放流活魚數	雌	雄	雌雄別	斃死數
三月三日	木場沼	七二三	二八六〇	六九八	三三五	三六三	三六三	二五
三月十六日	柴山沼	四七七	二八〇〇	四四八	二四五	二〇三	二〇三	二九
全計	江能養魚會社養魚池	二〇六	一〇〇〇	一八二	八七	九五	九五	二四
三月二十八日	柴山沼	六七二	三、四八〇	六六九	三五八	三一	三一	三
計		二、〇七八	一〇、一四〇	一、九九七	一、〇二五	九七二	九七二	八一

右ノ内江能養魚會社養魚場ヘ移殖ノ分ハ僅ニ百八十二尾ニシテ之ハ面積五十三坪ノ止水池ニシテ即チ坪當放養量ヲ三、四尾ノ割合トシ専ラ人工餌料ニヨリ池中飼育ヲ劃ルト同時ニ進ンデ次年度ニ於テハ適當ナル産床ヲ研究シ人工的蕃殖方法ヲ講ゼントス

今運搬當時ニ於ケル水温ノ變化並經過時間等ヲ示セバ左表ノ如シ

發送場所	同上時刻	放流場所	同上時刻	運搬ニ要セシ時間	水温		備考
					發送時	放流時	
滋賀縣彦根町	三月三日午前十一時五十分	木場沼(小松野ヨリ約一里)	三月三日午後八時	八時間十分	五〇度	五度	
滋賀縣水産試驗場	三月十六日午前十時	柴山沼(動橋野ヨリ約二十町)	三月十六日午後六時	八時間	九〇度	八度	汽車一時間延着ス
同	同	江能養魚會社(動橋野ヨリ約一里)	三月十六日午後七時	九時間	九〇度	九度	
同	三月二十八日午前十時	柴山沼(動橋野ヨリ約二十町)	三月二十八日午後五時二十分	七時間二十分	一〇、五度	九度	

但シ運搬器ノ蓋上ニハ水塊ヲ乗セ水温ノ上昇ヲ防止ス

月日	天候	風位	風力	氣温	水		標準温度比重	透明度	水色	流向	潮流	浮	備考
					表層	二十尋							
十一月廿一日	O	WNW		九.五	一六.〇	一七.一	一六.〇	一〇.〇	二.〇	ENE	一八.〇	二.〇	フリ、サアラ、
十一月一日	B	SSW		一一.一	一五.七	一五.八	一六.二	一〇.〇	二.〇	ENE	一五.〇	四.〇	フリ
十一月十一日	S	W		六.〇	一四.〇	一四.四	一四.三	一〇.五	三.〇	E	二四.五	六.〇	イカ大漁、アリ
十一月廿二日	C	W		五.〇	一三.五	一三.五	一三.五	一〇.五	三.〇	E	一八.〇	五.〇	フリ、イカ

(五八)

一、本年度宇出津沖合、海水状態ヲ前五ヶ年平均、大正四年及大正五年ノ各海水状態ト各月ニ亘リ比較スレバ左表ノ如シ

毎月上層水温比較表

年	別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
自大正元年	至大正五年平均	六.八	六.一	七.六	一〇.四	一五.八	二〇.二	二四.三	二七.七	二五.五	二二.二	一八.六	一五.八	一七.三
大正五年	四年	七.〇	六.六	六.四	一〇.四	一四.五	一八.四	二二.一	二五.四	二二.四	一八.四	一五.三	一八.〇	一七.二
大正四年	三年	七.〇	六.六	六.四	一〇.四	一四.五	一八.四	二二.一	二五.四	二二.四	一八.四	一五.三	一八.〇	一七.二
大正三年	二年	七.一	六.二	六.六	一〇.三	一四.四	一八.三	二二.〇	二五.三	二二.三	一八.三	一五.二	一七.九	一七.〇
大正二年	一年	七.一	六.二	六.六	一〇.三	一四.四	一八.三	二二.〇	二五.三	二二.三	一八.三	一五.二	一七.九	一七.〇
大正一年	平均	六.八	六.一	七.六	一〇.四	一五.八	二〇.二	二四.三	二七.七	二五.五	二二.二	一八.六	一五.八	一七.三
全	六	二.〇	六.三	八.九	一三.八	一七.五	二一.八	二五.〇	二七.八	二五.九	二二.一	一八.四	一五.四	一七.〇

毎月中層水温比較表

年	別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
自大正元年	至大正五年平均	三.七	二.二	一〇.九	一〇.〇	一〇.五	一三.六	一八.四	二一.三	二〇.一	一七.三	一五.八	一五.八	一七.三
大正五年	四年	三.七	二.二	一〇.九	一〇.〇	一〇.五	一三.六	一八.四	二一.三	二〇.一	一七.三	一五.八	一五.八	一七.三
大正四年	三年	三.七	二.二	一〇.九	一〇.〇	一〇.五	一三.六	一八.四	二一.三	二〇.一	一七.三	一五.八	一五.八	一七.三
大正三年	二年	三.七	二.二	一〇.九	一〇.〇	一〇.五	一三.六	一八.四	二一.三	二〇.一	一七.三	一五.八	一五.八	一七.三
大正二年	一年	三.七	二.二	一〇.九	一〇.〇	一〇.五	一三.六	一八.四	二一.三	二〇.一	一七.三	一五.八	一五.八	一七.三
大正一年	平均	三.七	二.二	一〇.九	一〇.〇	一〇.五	一三.六	一八.四	二一.三	二〇.一	一七.三	一五.八	一五.八	一七.三
全	六	三.三	一〇.九	一〇.一	一〇.八	一〇.九	一三.八	一七.八	二一.八	二〇.八	一七.八	一五.八	一五.八	一七.〇

毎月下層水温比較表

年	別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
自大正元年	至大正五年平均	三.七	二.二	一〇.九	一〇.〇	一〇.五	一三.六	一八.四	二一.三	二〇.一	一七.三	一五.八	一五.八	一七.三
大正五年	四年	三.七	二.二	一〇.九	一〇.〇	一〇.五	一三.六	一八.四	二一.三	二〇.一	一七.三	一五.八	一五.八	一七.三
大正四年	三年	三.七	二.二	一〇.九	一〇.〇	一〇.五	一三.六	一八.四	二一.三	二〇.一	一七.三	一五.八	一五.八	一七.三
大正三年	二年	三.七	二.二	一〇.九	一〇.〇	一〇.五	一三.六	一八.四	二一.三	二〇.一	一七.三	一五.八	一五.八	一七.三
大正二年	一年	三.七	二.二	一〇.九	一〇.〇	一〇.五	一三.六	一八.四	二一.三	二〇.一	一七.三	一五.八	一五.八	一七.三
大正一年	平均	三.七	二.二	一〇.九	一〇.〇	一〇.五	一三.六	一八.四	二一.三	二〇.一	一七.三	一五.八	一五.八	一七.三
全	六	三.三	一〇.九	一〇.一	一〇.八	一〇.九	一三.八	一七.八	二一.八	二〇.八	一七.八	一五.八	一五.八	一七.〇

毎月表層比重比較表

年	別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
自大正元年	至大正五年平均	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六
大正五年	四年	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六
大正四年	三年	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六
大正三年	二年	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六
大正二年	一年	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六
大正一年	平均	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六	一〇.一六
全	六	一一.一	一一.一	一〇.九	一〇.四	一〇.一	一〇.一	一〇.一	一〇.一	一〇.一	一〇.一	一〇.一	一〇.一	一〇.一

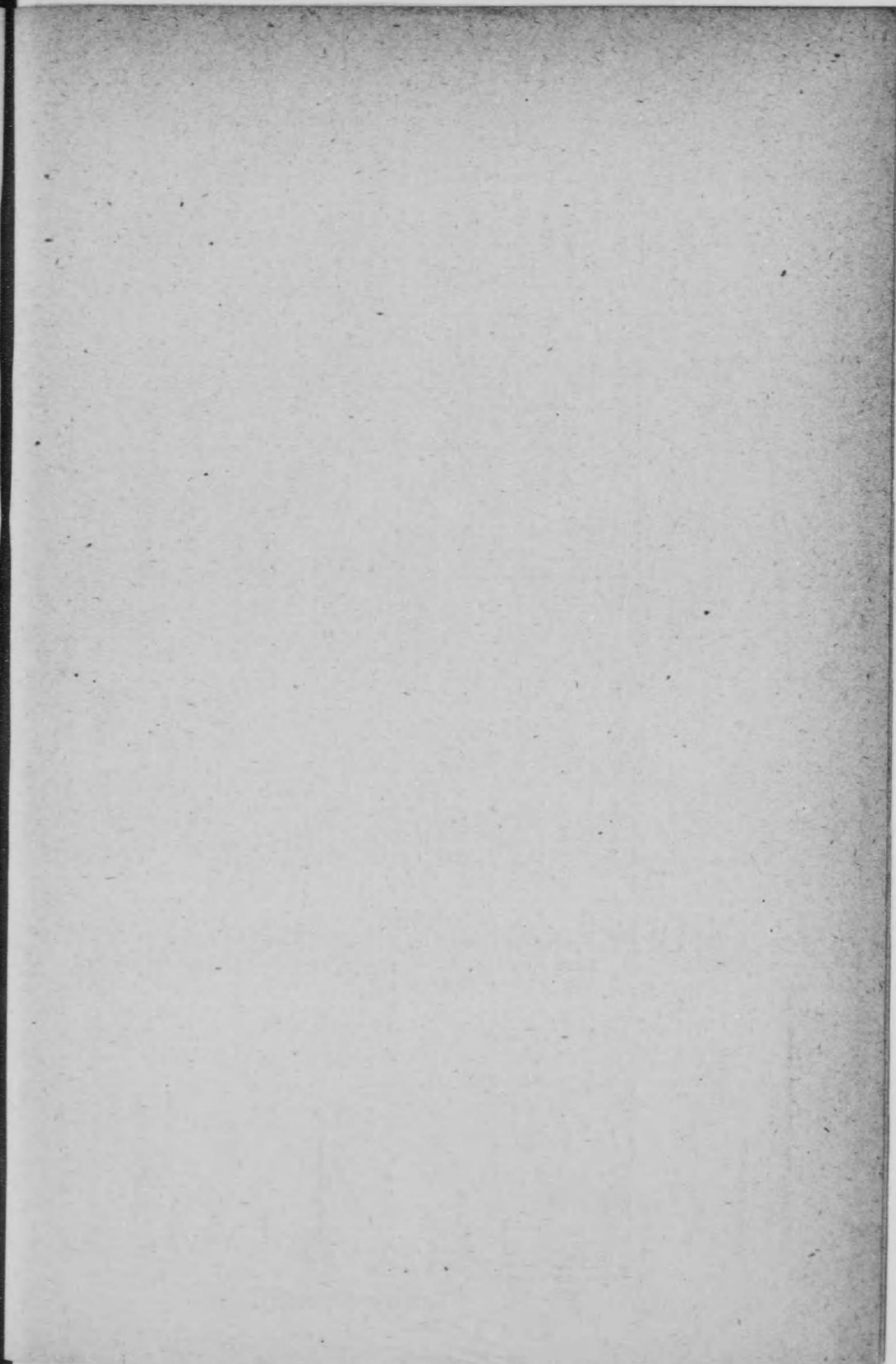
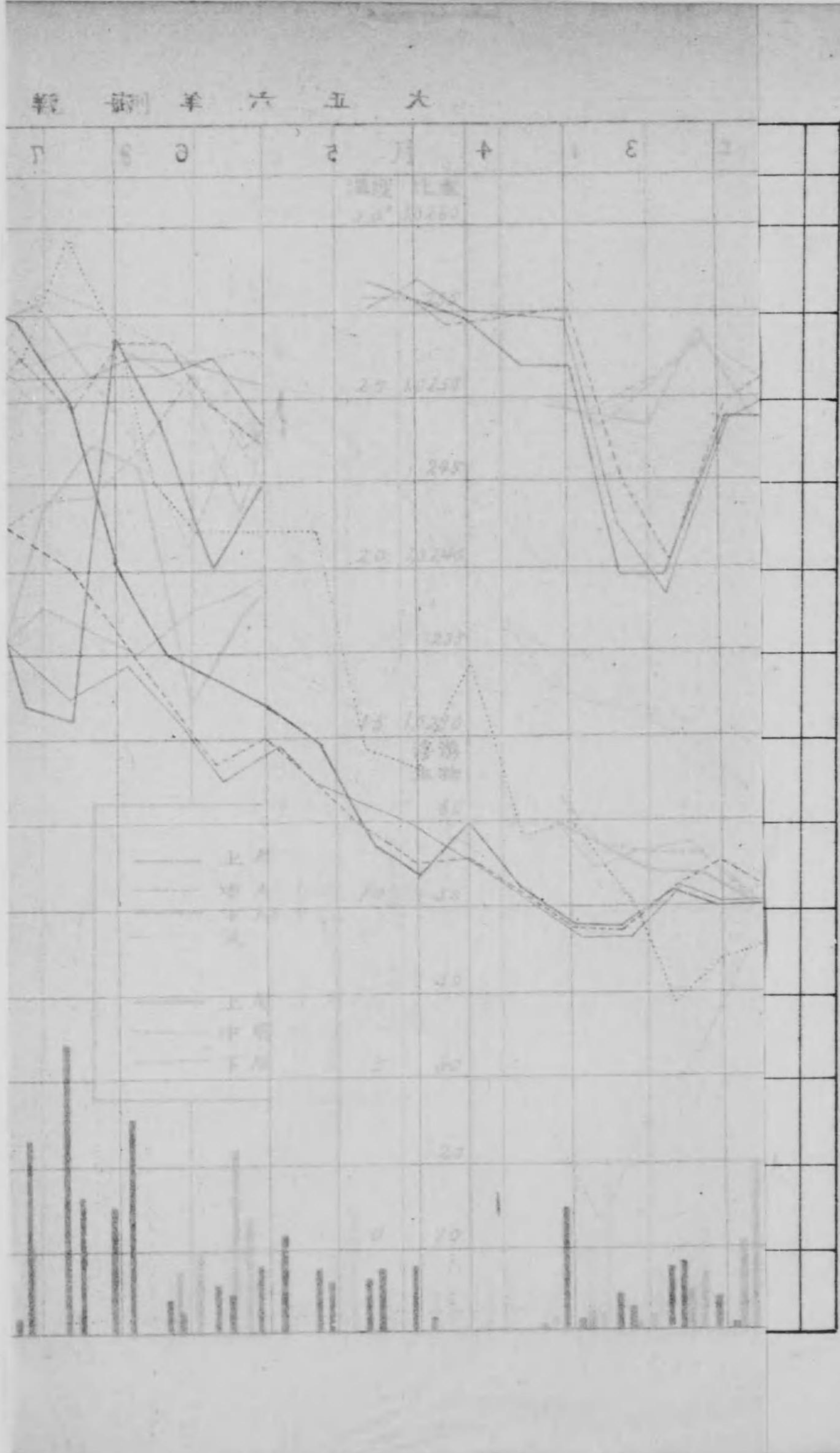
毎月中層比重比較表

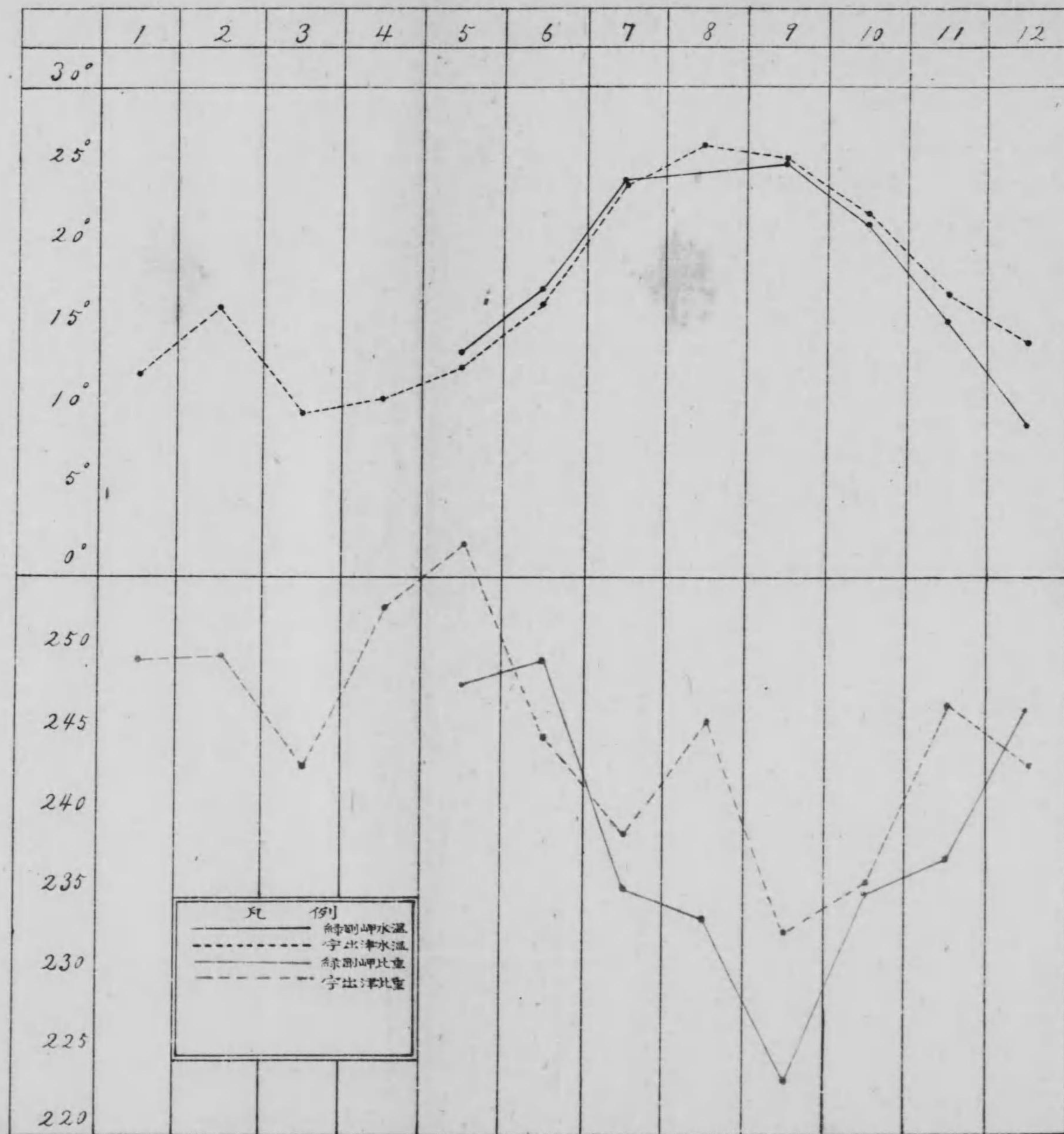
年	別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
自大正元年	至大正五年平均	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三
大正五年	四年	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三
大正四年	三年	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三
大正三年	二年	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三
大正二年	一年	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三
大正一年	平均	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三
全	六	一〇.九	一〇.八	一〇.六	一〇.六	一〇.六	一〇.六	一〇.六	一〇.六	一〇.六	一〇.六	一〇.六	一〇.六	一〇.六

毎月上層比重比較表

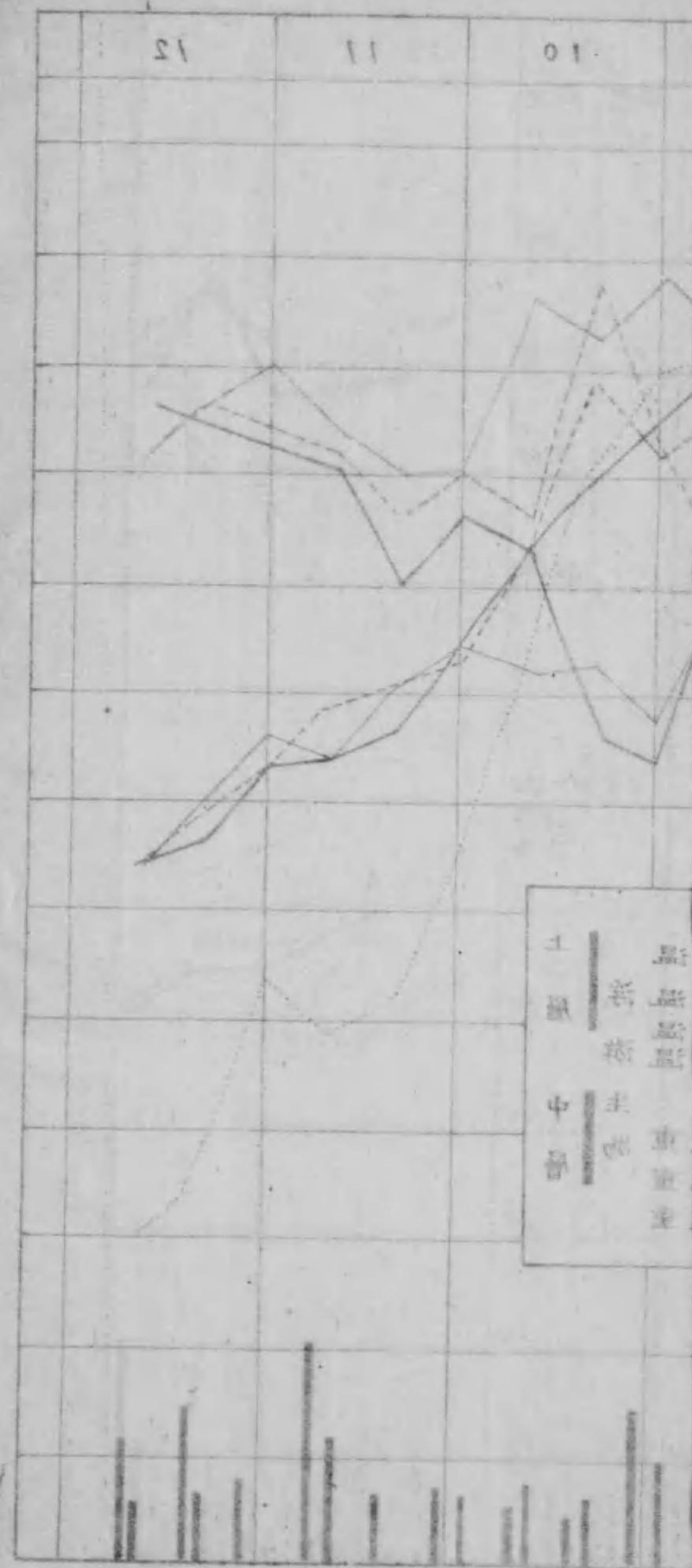
年	別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
自大正元年	至大正五年平均	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三
大正五年	四年	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三
大正四年	三年	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三
大正三年	二年	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三
大正二年	一年	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三
大正一年	平均	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三	一〇.一三
全	六	一〇.九	一〇.八	一〇.六	一〇.六	一〇.六	一〇.六	一〇.六	一〇.六	一〇.六	一〇.六	一〇.六	一〇.六	一〇.六

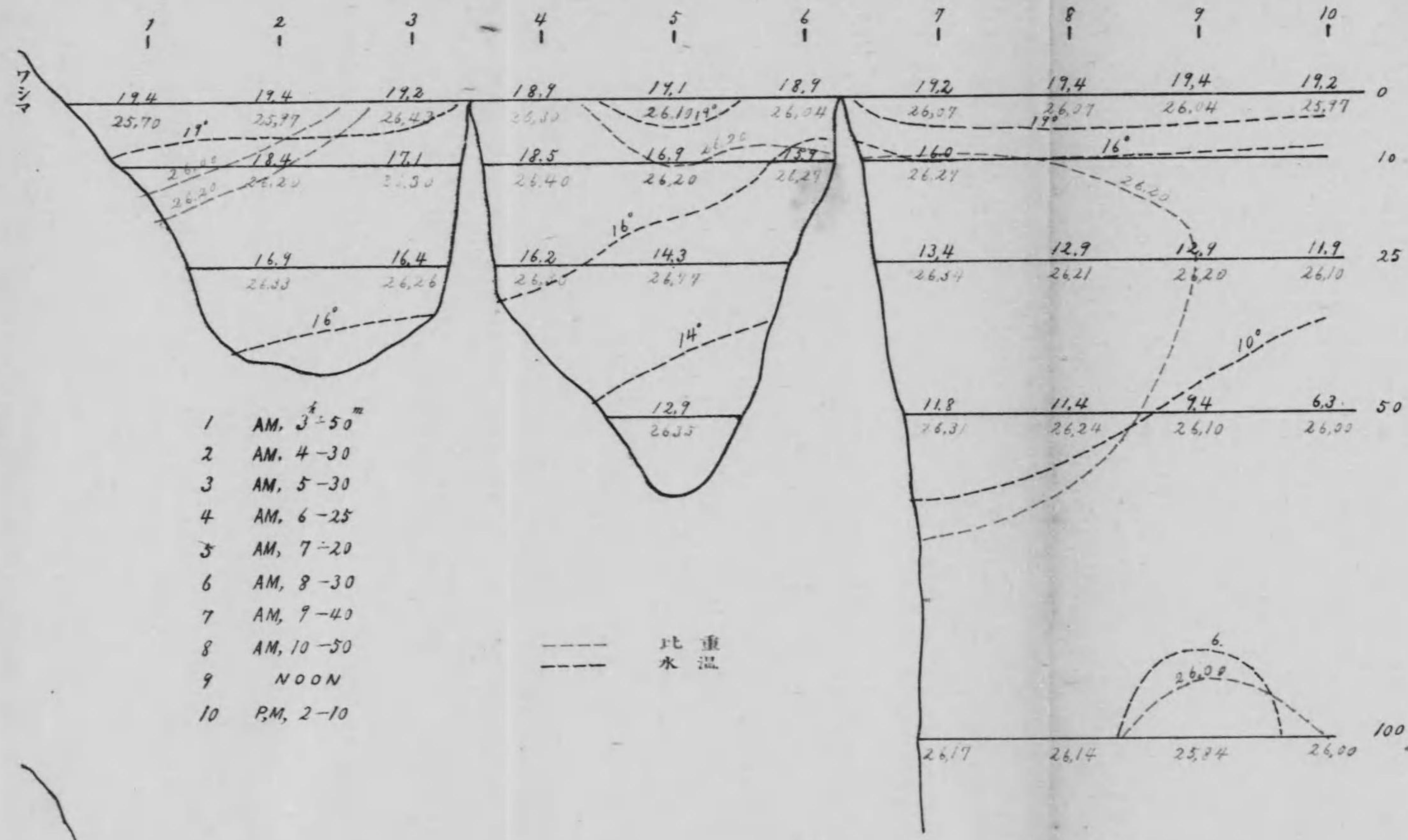
(五九)





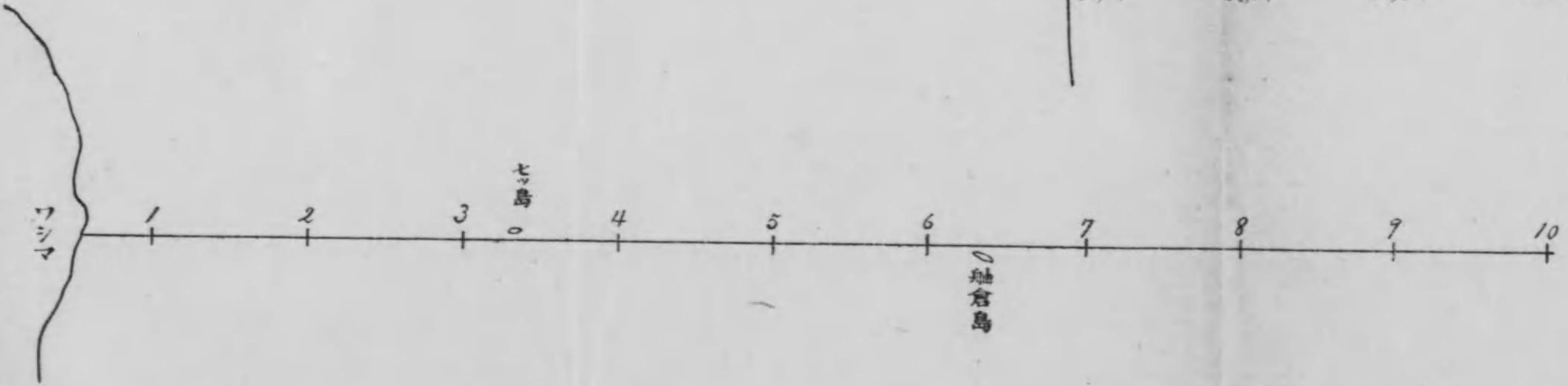
宇出津沖合と緑剛崎沖合の表面海水水温比重ノ比較スレバ左表ノ如シ





- 1 AM, 3-50^m
- 2 AM, 4-30
- 3 AM, 5-30
- 4 AM, 6-25
- 5 AM, 7-20
- 6 AM, 8-30
- 7 AM, 9-40
- 8 AM, 10-50
- 9 NOON
- 10 PM, 2-10

----- 比重
 ----- 水温



一、七月一日輪島沖合大蛇礁ヲ基点トシ磁針方位北ニ針路ヲトリ七ツ島軸倉島ノ經テ軸倉島沖合二十哩ノ線ヲ觀測セル結果左表ノ如シ

風風天
 位力候
 西一晴



中土半島... 緯度... 経度... 水深... 温度... 湿度... 風速... 風向... 雲量... 天気... 時刻... 観測者... 船名... 航路...

第五目 修繕費	二六〇〇〇	一〇〇〇	三三五〇〇	指定修繕費	二六〇〇〇	四〇〇〇	三〇一五〇〇
普通修繕費	二〇〇〇〇		二〇〇〇〇				

第二 規 程

一、石川縣水産試驗場規則

(明治三十七年三月告示第百二十號)
(同三十八年三月告示第百號追加)

- 第一條 本場ハ石川縣水産試驗場ト稱シ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、水産ニ關スル試驗又ハ調査及ヒ其成績報告
 - 二、水産講習及巡回講話並ニ其進會、品評會出品ニ關スル審査
 - 三、水産物ノ分析及鑑定
 - 四、水産ニ關スル質疑應答
 - 五、其他水産上必要ト認ムル事項
- 第二條 本場ニ左ノ職員ヲ置ク
- 場 長 一 名
 - 技 師 若干名
 - 技 手 若干名

書 記 若干名

- 第三條 場長ハ技師又ハ技手ヲ以テ之ニ充テ知事ノ指揮監督ヲ受ケ場務ヲ掌理ス
- 第四條 技師ハ場長ノ指揮ヲ承ケ場務ヲ分掌ス
- 第五條 技手ハ場長及技師ノ指揮ヲ承ケ場務ニ従事ス
- 第六條 書記ハ場長及技師ノ指揮ヲ受ケ庶務會計ニ従事ス
- 第七條 場長事故アル時ハ首席職員其職務ヲ代理ス
- 二、石川縣水産試驗場事務章程
- (明治三十七年四月)
(訓令丙第一三號)
- 第一條 左ノ事故ハ知事ニ上申スヘシ
- 一、職員ノ賞罰進退ニ關スルコト
 - 二、職員ノ歸省及除服ニ關スルコト
 - 三、其他上申ヲ要スト認ムル事項
- 第二條 左ノ事項ハ知事ニ經伺ス可シ

一、諸規則ノ制定若クハ改廢ニ關スルコト

- 二、場舎ノ新築及改増築ニ關スルコト
 - 三、經費豫算ノ流用ニ關スルコト
 - 四、器具機械ノ貸與ニ關スルコト
 - 五、職員ノ管外出張ニ關スルコト
 - 六、講習ニ關スル事項
 - 七、前諸項ニ等シキ重大ノ事項ニ關スル事
- 第三條 左ノ事項ハ場長ニ於テ專行スル事ヲ得 但シ事後其事由若クハ狀況ヲ知事ニ報告スヘシ
- 一、職員ノ分課擔任
 - 二、職員ノ管内出張
 - 三、旅費日當ヲ支辨シ職員ノ出張ヲ請求シタル時ハ場務ノ都合ニヨリ十日以内ハ其求メニ應スルコト
 - 四、雇員以下ノ採用罷免並ニ賞罰ニ關スルコト
 - 五、報告書ノ發刊

第四條 場長ハ其權限内ノ事件ニ關シ文書ノ往復ヲ爲スコトヲ得

第五條 業務功程ハ翌年四月限り知事ニ報告ス可シ

第六條 本章程其他命令ヲ以テ特ニ定メタルモノ、外ハ總テ石川縣職務細則ニ準據ス可シ

三、石川縣令第十六號

(明治四十二年三月二十七日)

水産業指導ニ關シ旅費日當ヲ支辨シ水産試驗場職員ノ出張ヲ請求セントスルモノハ其所轄市町村長及ヒ郡長ヲ經由シ水産試驗場長ニ申請スヘシ

四、石川縣水産試驗場傳習生規程

- 第一條 發動機船運轉手並同機關手ヲ養生セムカ爲本場ニ傳習生ヲ置ク
- 第二條 傳習生ハ左ノ二種トス
- 一、甲種傳習生 發動機船ノ運用航海及漁撈法ヲ實習セシムル者
 - 二、乙種傳習生 發動機關ノ運轉方法及應急處理法ヲ實習セシムル者
- 第三條 前條甲種乙種ノ傳習生ハ各本場所屬金城丸ニ乗組ミ各相當技術ヲ實地ニ專修セシメ其ノ修業期間ヲ拾箇月

トス 但シ修業期間ハ時宜ニ依リ之ヲ伸縮スルコトアル
ヘシ

第四條

傳習生志願者ハ左ノ資格ヲ有スル者ニ限ル

一、年齡滿十八歲以上三十歲以下ノ男子ニシテ尋常小學

校卒業者クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

二、身體強健ニシテ品行方正ナル者

三、三箇年以上水産業ニ従事シタル者若クハ其ノ子弟

第五條 傳習生ノ志願者定員ヲ超ユルトキハ本場長ニ於テ

之レカ選擇採否ヲ決ス

第六條

傳習生ノ費用ハ自辨トス 但シ手當金ヲ支給スル

コトアルヘシ

手當金支給ノ方法ハ知事ノ認可ヲ受ケ場長之レヲ定ム

第七條 傳習生ノ募集時期人員及支給スヘキ手當金額ハ其

ノ都度之ヲ廣告ス

第八條

傳習生タラムトスル者ハ第一號書式ノ願書ニ第二

號書式ノ履歷書ヲ添ヘ場長ニ差出スヘシ

第九條

傳習生トシテ入場ノ許可ヲ受ケタル者ハ第三號書

式ノ保證書ヲ場長ニ差出スヘシ

保證人ハ父兄又ハ縣内ニ在住シ相當ノ資産ヲ有スル成年
ノ男子ニ限ル

第十條

傳習生ハ疾病其ノ他正當ノ事由アル場合ノ外妄リ

ニ退場ヲ許サズ 但シ法規ニ違背シ若クハ命令ヲ遵守セ

サルトキ又ハ成業ノ見込ナキ者ニ對シテハ傳習生ヲ解除

シ既ニ支給シタル手當金ヲ返納セシムルコトアルヘシ

第十一條 傳習生ニシテ傳習ヲ卒ヘタル者ニハ其ノ成績ヲ

考查シ修了證書ヲ交附ス

五、試驗船乘組員獎勵金給與規程

第一條

試驗成績向上ノ目的ヲ以テ當場所屬試驗船乘組員

ニ對シ出漁試驗ノ都度其ノ漁獲高ノ十分ノ一ニ相當スル

金額ヲ臨時雇漁夫給ヨリ割増支出シ其ノ乘組員ヘ給與ス

ルコト

第二條

試驗船乘組員トハ機關士、水夫長、水夫、油差、

漁夫トス

第三條

獎勵金給與ノ方法ハ乘組員ノ勤怠ヲ考查シ場長之

レヲ定ム

大正七年十一月三十日印刷

大正七年十二月十日發行

石川縣水產試驗場

石川縣鳳至郡宇出津町字宇出津

ウ字六十三番甲地

印刷者 上田 藤造

石川縣鳳至郡宇出津町字宇出津

ウ字六十三番甲地

印刷所 上田印刷所

〔電話二十五番〕

8. 1. 23

終